ひろば

No.48

（クレセント前の芝生から）

令和４年度　研究紀要

秋田県立横手城南高等学校

教師だけができること

校 長　高 橋　透

太宰治の『富岳百景』に、「バスの女車掌」が登場します。主人公は、富士山がよく見える御坂峠の茶店に逗留しているのですが、定期的に麓の郵便局に留め置かれている郵便物を受け取りにバスで往復しています。

「ここのバスの女車掌は、遊覧客のために、格別風景の説明をしてくれない」

「女車掌が、思い出したように、みなさん、きょうは富士がよく見えますね、と説明ともつかず、また自分ひとりの詠嘆ともつかぬ言葉を、突然言い出して、…」

この直後に「富士には、月見草がよく似合う」が出てくるのではありますが、麓の郵便局まで路線バスで往復していると考えられますので、ここでの「女車掌」から、今で言うバスガイドさんを連想してはいけないということになるでしょう。路線バスとはいえ、風光明媚なところを走るのですから、多少なりとも風景の説明をするサービス精神があってもよいのかもしれませんが、それは、彼女の本来業務ではないのです。この当時は（『富岳百景』発表は、昭和13年）、バスに乗り込んできた乗客に目的地までの乗車券を販売したり、バスの運行上危険な箇所（踏切とか、舗装されていない狭隘な道路とか）にさしかかったときに周囲の安全確認や誘導を行ったりすることを主要な仕事とする車掌さんが乗車して勤務していたのです。私自身も、女性の優しい車掌さんが路線バスに乗車していたことをうっすら覚えています。まだ幼かった頃の記憶です。多分50年くらい前のことかと思います。その後、バスは、すぐにワンマンバスになり、車掌さんを見ることはなくなりました。

長々と書きましたが、つまりは、バスの車掌さんは、もう消えてしまった職業だと言いたかったのです。もしかしたら、自動車の自動運転（重言のようです）が実現すれば、運転手さんも消えてしまい、（乗客以外は）無人のバスになるかもしれません（過疎地では、乗客も含め誰も乗っていないバスが走り回るという空恐ろしいことも起こりそうです）。

では、教師はどうか。「コロナ禍」は、学校のＩＣＴを急激に進行させたという一面を持っています。少し前には思いもよらなかったオンライン授業やオンライン会議等があっというまに学校現場に浸透しました。来年度から、本県でも統合型校務支援システムが導入されることになっていますが、それにより、教師の仕事の多くがデジタル化されることでしょう。教師が多忙すぎるということが言われています（全くその通りだと思います）。デジタル技術により代替可能な部分は、どんどんそちらに任せてしまえばよいと思います。ただ、デジタルに任せたら、自分の仕事がすべてなくなった、ということにならないか、ちょっと考える必要があるかもしれません。ＩＣＴ化がどんどん進んで、ＡＩによって動くアンドロイド（スマホのOSではありません）が授業を行うこととなり、教師が学校から消えることになるのでしょうか。私は、そんなことにはならない、なってはいけないと思うのですが、では、「おまえは、ＡＩには代替不可能な仕事をしているのか」と誰かに聞かれたら、なんと答えたらよいものでしょうかと、私は考え込んでしまいます。教師だけができること、その力を磨くことが研修の意義になるのかもしれません。

目　次

巻頭言　　教師だけができること　　校長　高橋　透

(ページ)

校内教科研修会

英　語	「論理表現Ｉ」	柴 田　洋 幸	1
国　語	「現代の国語」	小武海 春 佳	7
数　学	「数学Ａ」	照 内　咲 子	12
地歴公民	「日本史Ｂ」	今 入 健志郎	16
芸　術	「書　道」	齊 藤　貴 子	20
理　科	「地学基礎」	百 木　慶 郎	25

年次研修

令和４年度教職５年目研修講座（高等学校）を終えて　小武海 春 佳　31

校外研修

【センター研修】講座番号　Ｂ－１６生徒指導推進研修講座について
生徒指導部　柴 田　　史　33

【高教研】令和４年度秋田県薬物乱用防止教育研修会に参加して
生徒指導部　百 木　慶 郎　35

【高教研】「『生き抜く力』を育む進路指導・キャリア教育の在り方」について
進路指導部　今 入 健志郎　38

令和４年度　芸術系教科等担当教員等全国研修会について
芸術科（美術）　糯 田 亜希子　42

その他

令和３年度第２回生活学習アンケートについて（報告）　研 修 部　46

編集後記　55

令和４年度　英語科「論理・表現Ⅰ」

柴田　洋幸

指導案

英語科　論理・表現Ⅰ　学習指導案 秋田県立横手城南高等学校　普通科　第１学年 令和４年１１月７日（月）第４校時　　場所：１年Ｂ組教室　　指導者：柴田　洋幸	
単元名	「Big Dipper」 English Logic and Expression Ⅰ　（数研出版） Lesson 21 A Birthday Gift
学習指導要領上の位置づけ	「話すこと[やりとり]」 ア　関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。
単元の目標	次の項目について、表現のしかたを理解し、適切な場面において必要な語句を正しく用いることを考えながら、主体的にやり取りをして習得する。 ① 名詞の働きをする節を導く接続詞 that, if[whether] ② 副詞の働きをする節を導く接続詞 when, because, if, though
単元設定の理由	（１）生徒観 比較的英語が得意な生徒から、かなり苦手な生徒が混在しているが、学習習慣が身に付き、協力し合ってペアワークやグループワークをする良い雰囲気がある。英語を読むことが苦手な生徒が多いのでできるだけ個別に音読をさせて修正するようにしている。今回の単元では、最近学習した関係副詞を使いながら総合的な探究の時間で行っている地域探究の話題を活用して、名詞節、副詞節を導く文を書いて表現できることをめざす。 （２）教材観 今回の単元は、Big Dipper Ⅰ の教科書の２つに分かれたパートのうち前半の最後のレッスンに位置している。よって、これで基本的な文法項目の学習が終わり、次回からは既習事項の内容を幅広く活用して書いたり話したりする活動をしていくことになる。教師がグーグル・スライドを使って学習内容を提示したり、生徒の理解度や誤答の傾向を把握するためにグーグル・フォームを活用したりする。生徒自身はグーグル・ドキュメントで解答の確認をしたり、ライティング活動をしたりする。例文や問題量が少ないが、それを活用して生徒自身が英文で自分の考えを書き伝えることを重視する。

	（３）指導観 　ウォーミング・アップ、復習、本題すべてを通じて、生徒同士のやり取りを文字や音声を通じて実施し、思考力を生かして主体的にかかわりをもってコミュニケーション活動が行えるよう支援していく。苦手意識を持つ生徒が英語嫌いにならないよう安心して学習できる雰囲気と発問や指示の仕方を工夫する。

単元の評価規準

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	a. 英語で「～であること」「～かどうか」や、「～するとき」「～なので」「もし～ならば」の意味を表すにはどのような表現を用いるのかを理解している。 b. 日常生活において、改善すべきことや明確でないこと、楽しく感じることなどについて、接続詞［複文］を用いてコミュニケーションを図る技術を身につけている。 c. ポイントとなる接続詞の用法のほかに、win, (the) first prize, traffic light, reduce, combination, be essential to などの語彙や表現を習得している。	a. 適切な場面において、名詞節を導く that, if[whether] や、副詞節導く when, because, if を用いて、従節を含む文を表現している。 b. 適切な場面において、名詞節や副詞節を導く接続詞の用法に注意して、個々の英文の意味を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答している。	a. ②の各項目について、積極的に取り組んでいる。 b. そのほか、名詞節を目的語にとる述語動詞や、when, because, though と共起する表現などを習得しようとしている。

指導と評価の計画

時	主な学習活動	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 本時	・前時の復習 ・例文の音読とディクテーション ・文法事項の理解 ・場面に応じた英文を作る。 ・イラストから読み取れる状況を英文にする。 ・名詞節を導く英文づくりと生徒同士のやりとりの活動	・英語で「～であること」「～かどうか」の表現のしかたを理解している。 ・win, (the) first prize,などの語彙や表現を習得している。	・適切な場面において名詞節を導く that などを用いて表現している。 ・名詞節を導く接続詞の用法に注意して、適切な思考・判断をして応答している。	・表現のしかたを積極的に理解し、言語活動に主体的に取り組んでいる。 ・名詞節を目的語にとる述語動詞や、接続詞と共起する表現を習得しようとしている。
2	・前時の復習 ・例文の音読とディクテーション ・文法事項の理解 ・場面に応じた英文を作る ・イラストから読み取れる状況を英文にする。 ・副詞節を導く英文づくりと生徒同士のやりとりの活動	・英語で「～するとき」「～なので」「もし～ならば」の表現のしかたを理解している。 ・traffic light, reduce, combination など の語彙や表現を習得している。	・適切な場面において副詞節を導く when, because, if を用いて表現している。 ・副詞節を導く接続詞の用法に注意して適切な思考・判断をしてそれに応答している。	・表現のしかたを積極的に理解し、言語活動に主体的に取り組んでいる。 ・理由や条件を表す節のある文を用いて、主体的に自分の考えや思いを伝えようとしている。

本時のねらい（第１時）

名詞節を導く that, if[whether]の用法を理解して英文を作り、ペアワークをとおして主体的にコミュニケーションをとる。

本時の CAN-DO

リスニング	リーディング	スピーキング（やり取り）	スピーキング（発表）	ライティング
G2:会話を聞いて、話し手の意図や状況を理解し、おおよその内容を理解することができる。	G2:一文が短く、単純な構文で構成された文章の要旨をとらえることができる。	G1：日常生活の単純な質問に対して的確に受け答えができる。	G2：身近なことや自分のことについて、簡単な英語を使って表現することができる。	G2：すでに学習した文法事項等を使用して、簡単な英文を的確につくることができる。

指導過程

段階	学習活動	時間（分）	◇指導上の留意点　◆評価【観点】（評価方法）　［使用教具・教材など］
導入	1 ｳｫｰﾐﾝｸﾞｱｯﾌﾟと前時の復習、本時のﾀｰｹﾞｯﾄの確認をする。	15	［英検ﾘｽﾆﾝｸﾞ問題活用］、［ｸﾞｰｸﾞﾙ・ｼﾞｬﾑﾎﾞｰﾄﾞ］、［YJﾊﾟﾗﾌﾚｰｽﾞｨﾝｸﾞ］
展開	2 名詞節を導く接続詞の用法を理解して英文をつくる。 (1)例文を理解し、that の用法について考える。	10	◇個別音読と全員のﾃﾞｨｸﾃｰｼｮﾝができるよう配慮する。 ◆文の構造を把握し接続詞 that の働きをとらえている。【知識】（提出物の集計）［ｸﾞｰｸﾞﾙ・ﾌｫｰﾑ］
	(2)“I wonder if …”の文をﾍﾟｱでﾊﾟﾀｰﾝﾌﾟﾗｸﾃｨｽする。	2	◆文意を把握し正しい表現に置き換えている。【思考】（観察）［ﾊﾟﾀｰﾝ・ﾌﾟﾗｸﾃｨｽ用ﾊﾝﾄﾞｱｳﾄ］
	(3)提示された語句を利用して、“Let’s Use It”の問題を解く。	3	◇文意のヒントから英文を作ることができるよう促す。［ｸﾞｰｸﾞﾙ・ｽﾗｲﾄﾞ］
	(4)“Think & Express”の問題を解き、ここまでの答え合わせをする。	2	［ｸﾞｰｸﾞﾙ・ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ］ ◇生徒の誤答の確認の進み具合を確認してメインの英作文の活動に進める。
	3 例を参考にして、自分の地元を題材に“Express Yourself”で“The fact is that…”の英文をつくる。ﾍﾟｱﾜｰｸで共有する。 4 自分のこと、ﾊﾟｰﾄﾅｰのことに関する英文を提出する。	16	◆自分のことについて“The fact is that…”の英文を正しく書き、ﾊﾟｰﾄﾅｰの言っていることを聞き取り、書き換えをしている。【表現】【主体】（提出）［ｸﾞｰｸﾞﾙ・ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ提出］ ◇机間巡視をして適切な文が書けるよう助言する。
まとめ	5 “The fact is that…”，“I wonder if …”は名詞節を導いていることを確認する。	2	◇今回は名詞節であり、次回は「時、理由」などを表す副詞節を扱うことを予告する。

資料	ﾊﾟﾀｰﾝﾌﾟﾗｸﾃｨｽ用ﾊﾝﾄﾞｱｳﾄ、ｸﾞｰｸﾞﾙの４種の教材利用と配信

分科会記録

1　授業者から

生徒に研究授業をすることを伝えていなかったので前の時間の授業の場所から戻って来るのがゆっくりで、５分遅れで授業が始まった。前時の復習のための活動で指定した範囲以外からの作問があって戸惑ったこともあり、時間が足りなくなり、途中の活動をカットしたり、説明が不十分になったりしたことが反省点である。

「総合的な探究の時間」でやってきた「地域探究」の内容を英作文の題材にして、「英コミ」の授業の中で出てきた、ゴミのポイ捨てを無くしていくトピックに関連した語彙を絡ませて立案した。両方の科目を担当していることをうまく生かす必要性を感じているところである。

指導案作りの段階で欲張らず「引き算」でプランニングしたつもりが、Google のフォーム、ジャムボード、スライド、ドキュメントの活用の実験的な授業にしようと思い活用を意識しすぎ、結果的にはメインの活動の浸透と深まりに欠けてしまった。ターゲットに到達できない生徒がいることはある程度想定していたが、普段やったことのあることでも、説明を理解できていない生徒が出てしまったことは痛かった。習熟度別の講座ではない点をどのように乗り越えていくかが課題である。生徒を退屈させず、取り残さない授業の立案を心がけたい。完成した英作文は Google ドキュメントで提出させることもあるが、それを添削指導する時間が確保できない。これができれば、生徒の英作文エラーを減らすことができると思う。

2　意見・感想から（→印以下は授業者による総括）

（１）タブレット、辞書、話す活動などさまざまなものを取り入れた「幕の内弁当」授業だった。

→　メインディッシュがじっくり味わえるようなものにできたらと思う。教材の提示方法、活動の組み立て、手法の工夫をしていきたい。

（２）「論理・表現Ⅰ」はスピーチや会話、書くことを目標とし、文法も学ばなければならないので、２単位でどのようにこなしていけばよいのか。予習・復習はどのようにしているのか。

→　文法を理解させて、しっかり書かせて、それを生かしてスピーチや会話ができる授業にするには、タブレットの効果的な使い方と授業中の活動の習慣化が必要だろう。また、活動の速度や理解の個人差を埋めるための机間巡視や助言が欠かせない。予習・復習をさせていないので、学んだことを定着させるための効果的な復習を考えたい。

（３）ペアワークが多くあったが、何をしたらよいのかが伝わらずに戸惑っている生徒がいた。習熟度でないので難しいところである。柔らかい表情で活動している生徒の姿があった。

→　廊下側の２列が「英コミ」の授業の上位講座にいる生徒たちなので、その列は比較的スムーズに活動が進んでいると思う。当日は７名の欠席があり、その他の列のところでは、普段やったことのないペアでの活動となり、活動が停滞してしまったようだった。同じような力の生徒同士で組むのが活動しやすいであろうが、生徒が退屈もしないし、置き去りにもならない内容や提示のしかた、活動のしかた方を工夫する必要がある。

（４）机上に置く物が多い。

→　タブレットを落としそうになるので、机間巡視でも注意が必要。ノートを書かずに済む授業を考えてもいいかもしれない。「英コミ」では紙辞書を多用しているので、「論理・表現」では使わないようにしてもよいかもしれない。

（５）英作文は時間が足りなくて、主語の言い換えをするような活動もあり、指示を理解することすらできない感じだった。

→　最後のメインの英作文に時間を掛けたかった。そこまでのところで時間がかかりすぎてしまった。主語の言い換え活動は、例文の復習活動でときどきやっていたが、まだまだ慣れていない活動なのでさらに慣れていく時間が必要である。

（７）語彙の学習⇒構文の確認⇒表現の練習、というスモールステップで最後の活動につながっていた。

→　このスモールステップが、必要な人と、そこまで必要としない人がいるので、どのように展開していけばよいかアイデアがほしい。

（８）問題演習、自己採点、表現活動とタブレットを使った学習がスムーズである。

→　ICT の活用により、いろいろなことが変化していくと考えられるが、ネットで答えをすぐ探せてしまうというマイナスの面もあるので、より合理的で効果的な使い方を模索したい。

現代の国語　学習指導案

日　時　令和４年１１月１７日（木）２校時
授業者　小武海　春佳
場　所　横手城南高校１年Ｃ組教室

１　単元名　本文を踏まえて自分の考えをもち，相手を納得させる文章を書くことができる。

２　単元の目標

（１）主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。（知識及び技能（２）ア）

（２）目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて，文章全体を整えたり，読み手からの助言などを踏まえて，自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。

（思考力，判断力，表現力等　B 書くこと（１）エ）

（３）言葉のもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

（学びに向かう姿勢、人間性等）

３　評価規準

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう姿勢，人間性等
主張と論拠,具体例など文章の構造や文章同士の関係性について理解している。	読み手からの助言などを踏まえて,根拠をもった文章を書き,相手を納得させる工夫をしている。	①文章の構造等について理解しようとしている。 ②相手の発言や,読み手からの助言を聞き,自分の文章を工夫しようとしている。

４　単元設定の理由

（１）生徒の実態　男子１４名　女子２６名　計４０名

発言が活発で，自分の意見を臆せず話したり，書いたりすることができる生徒たちが多い。一方で，自分の考えをじっくりと熟考した経験があまりなく，考えと感想を混同したり，文章構成を意識して書いたりすることが苦手であるため，今の長所を活かしつつ，根拠をもった自分の考えをもたせた上で，相手を意識した文章を書く力を養いたい。

（２）本教材について

内田樹の『フェアな競争』である。本教材は，現代社会に蔓延るリバタリアン的論理に反論し，格差社会の是正の方策を示唆した文章である。共同体の構成員として生きていく私たちの姿勢や責任について考えるうえで適当な教材である。筆者の主張とそれに対するリバタリアンの主張がわかりやすく書かれており，自分の考えをもって書くという力を養う初歩として効果的な教材である。

（３）（１）（２）を受けた，本単元の指導について

生徒に根拠のある考えをもってもらうために，まずは本文の内容を理解し，筆者の主張とリバタリアンの主張を把握する。その後，「自分はどちらに賛同するか」という問いを投げかけ，理由を含めて書いてもらう。その後，考えを発表し合いながら，より相手を納得させるためにはどうしたら良いか，自分の考えを深めるためにはどうしたよいかアドバイスをし合うことで，相手を意識した書き方を身につけられるようにする。

５　全体計画（総時数６時間）と評価規準（方法）

１時間目　　・・意味段落に分ける。【知識，学び①（観察，発表）】

２～４時間目　　・・問題演習を通じて内容読解をし，要約する。【知識，学び①（観察，ノート，板書）】

５時間目　　・・問題演習を通じて内容読解をし，要約する。その後，自分は筆者の主張とリバタリアンの主張のどちらに賛同するか，理由も含めて書く。

【知識，学び①（観察，ノート，板書）】

６時間目（本時）　・・自分の書いた主張を発表し，アドバイスをもらい，相手を納得させる書き方の工夫を学んだ上で再度自分の考えを書き直す。

【思考，学び②（観察，発表，ワークシート）】

６　本時の計画（本時　６／６時間）

（１）本時の目標

読み手からの助言などを踏まえて，根拠をもった文章を書き，相手を納得させる書き方を身につける。

（２）学習過程

過程	生徒の学習活動	学習形態	教師の支援	評価規準（評価の方法）
導入（５分）	・前回書いた自分の主張の内容を確認する。 ・学習課題を確認する。	個		
学習課題：　アドバイスをもらって，相手を納得させる文にしよう				
展開（３５分）	・自分の主張を班員に発表する。 ・他者の考えに対する評価シートを記入しながら発表を聞く。 ・発表が終わったらその都度アドバイスを班員にする。 ・班の中で最も良いものを一つ選ぶ。	班	・他者の考えを否定せず，受け入れる姿勢をもつことを確認する。 ・アドバイスをメモするよう伝える。 ・良いものを選ぶ際に，評価シートを参考に選ぶように伝える。	・相手の助言や発言を聞こうとしている。 【学び②】（観察）
	・選ばれた班員が発表する。 ・工夫した点の良いところを全体で共有する。	全体	・意見を傾聴することを伝える。	・相手の助言や発言を聞こうとしている。 【学び②】（観察）
まとめ（１０分）	・アドバイスを踏まえて自分の考えを書き直す。	個	・書き直す時間を十分に確保する。	・助言を踏まえて自分の文章を工夫している。 【思考】（観察，ワークシート）

令和４年度　校内教科研修会分科会（国語）

日　時　　令和４年１１月１７日（木）
授業者　　小武海　春佳

１．授業者より

お忙しい中、授業を参観していただき、また多くのご助言をいただき、ありがとうございます。今回の授業は、「自分の考えに根拠をもち、相手を説得するための文章を書く力を生徒に身につけさせたい」という思いから構想しました。年度当初よりも、自分の思いや感想を発表する生徒が増えてきた中で、「感想と考えの違い」について自分自身が考えるようになりました。今、生徒たちは感想を述べることはよくできていますが、「根拠をもった考えをもつ」というのも今後の社会で生きていく上で彼らに必要であると感じたのです。

今回授業を行ってみて、「根拠をもたせることの難しさ」が反省点としてあげられます。考えを書くことはできても、相手を説得する根拠のもたせ方や、提示の仕方について十分な指導ができなかったと思います。また、「筆者の考えに対して必ずしも賛成しなくてもよい」という態度で授業を行ってきましたが、筆者の考えに反対する生徒の根拠が曖昧であり、感想にとどまらせてしまった点が改善点だと思います。

生徒たちは、大変よく頑張ってくれましたので、今後は指導側の力を高めてよりよい授業ができるように努めていきたいと思います。

２．参観者より

・　お忙しい中、研究授業を参観させていただき、ありがとうございました。
内容読解にとどまらず、それを踏まえて「相手を納得させる文章を書く」という活動によって、生徒は深く読み、考えることができたのではないかと感じました。小論文対策にもつながっていたと思います。

また、先生が生徒の発表から即座に納得させる文章作成のためのポイントを抽出し、板書の上でクラス全体に紹介しており、普段からの取り組みの積み重ねが感じられ、感銘を受けました。

Google ドキュメントも効果的に活用しており、発表者の文章を見ながら話を聴くことができるのは、生徒にとって非常に理解しやすかったはずです。大変勉強になりました。

一方で、リバタリアンに肯定的な意見は生徒の中からは出てきづらいと思うので、賛否が分かれる題材を用いて同様の授業を実践すると、より意見交換が活発化し、説得力のある文章を書く必然性も高まってきて、生徒からさらなる工夫が飛び出してくる期待があるのではと感じました。

・　本時の学習課題が「相手を納得させる文」なので、「書くこと」を評価する授業である。その観点で見ると、まず、Chromebook の利用によって他者の文章を自身の手元で確認できるため、コロナ禍においても「書くこと」をふまえたグループ活動が可能になることを証明

したと思う。また、生徒の発表から「自分の考え」をもつ文章になっており、ねらいの一つは達成されていると感じた。

しかし、「書くこと」の教材としてこの単元を扱うには難しいところがあったのではないか。本時の目標にある「根拠をもった文章を書く」という点において、その根拠が具体性に欠けていたり、根拠が気持ちや好みに終始していたりする文章(発表者)が見られた。また、その文章(発表)が別の意味で目立ち、生徒に影響を与える形となり、本文の解釈そのものが曖昧になってしまう危険性を感じた。「社会的共通資本の私物化は許されないという社会的合意が必要である」という筆者の主張を読み取る授業が事前になされているはずで、その点が揺らいでしまう可能性があると思う。確かに、「批判的な読み」から相手を納得させる意見を展開することも当然あり、活発な意見交換が可能になるだろう。しかし、筆者の主張を、生徒の私的な好みを根拠として批判させてしまうことは危険ではないだろうか。生徒はまだ１年生であるので、授業者の選択において、ある程度「批判的な意見が出るだろう」という予測のもとに単元を選ぶことが必要だったと思う。

生徒の授業に対する姿勢が能動的で、全員が自分の意見をもっていた。先生の日頃の取組の成果だと思う。勉強になりました。ありがとうございました。

・　普段からのグループ活動の成果が現れている素晴らしい授業であったChromebookによる情報の共有化や提示の仕方を含め、大変参考になることが多かった。

今回の授業では「書くこと」に重点が置かれていたが、前段階での本文の読み取りをいかにして今回の書くことへと結びつけるかが、大きなテーマになると思われる。また、時間の関係もあるが、まずは生徒に双方の主張と根拠を書かせることで、二つの視点を持たせることも効果的なのではとも感じた。

いずれにしても、このような授業の継続が生徒の主体性を生み、力を伸ばす授業であると強く感じる素晴らしい授業であった。

・ Chromebookを活用した授業として、参考になる授業だったと思います。
全員で共有するために、先生の事前の準備が大変だったろうと思いますが、生徒たちにとっては大きな学びを得るものとなったのではないでしょうか。

授業を見ていて気がついたのは、題材選びの面と、意見の善し悪しをジャッジさせる方法についてでした。

題材としては面白い題材と思いましたが、２つの意見を比較させるものとしては、難しいのではないかと思います。ある程度意見が２つに分かれるもので、両方の意見にある程度納得できるものでなければ、相手を納得させる文章を目指すのは大変かもしれません。また、偏った意見だとしても、生徒の発言力によってその優劣が付いてしまうのも、少し難点かなとも思います。題材と学習の中身については、私もよく悩むもので、適切に題材を活用して学びに結びつけることの難しさを感じています。

意見の善し悪しを判定させることに関しては、まず「良いものは何か」をそれぞれの中ではっきりさせなければ、成り立たないのではないかと思います。結果として全体で「納得させ

る良い文章の条件」を見つける授業であれば、手探りで考えさせても良いかと思いますが、ある程度、視点は与えてあげても良いかと思います。そのうえで、良い文章が果たして本当に納得するものなのか、さらにグループから全員で判定させるような流れにしても面白いのかなと思います。タブレットを用いた授業ですので、書いたものを読み合うにしろ、意見を出し合うにしろ、紙媒体ではできないことができるのではと感じてはいるものの、私はなかなか使い方を見いだせないでいます。今回の授業でも意見の交わし方を工夫すると、もう少し時間ができて、もう一段階上の内容ができたのかなと思います。

数学科（数学Ａ）学習指導案

日　時：令和４年１２月５日(月)６校時
対　象：１年Ｃ組(４０名)
場　所：１年Ｃ組教室
授業者：照内　咲子
教科書：新編　数学Ａ(数研出版)

１　単元名　「第２章　図形の性質」

第１節　平面図形

２　単元の目標

図形の性質について、数学的な活動を通して、その有用性を認識するとともに、三角形や円、空間図形などの基本的な性質を理解する。また、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察・説明し、コンピュータなどの情報機器を用いて、図形の性質や作図について統合的・発展的な考察ができるようにする。

３　単元と生徒

普段、おとなしい印象だが、お互いに相談したり考察したりする場面では、周囲の生徒同士で協力して活発に活動できる。しかし、徐々に難化、複雑化していく内容や課題を正しく捉えることができない生徒や、数学的な表現や推論を苦手とする生徒も、少なからずいるため、そのような生徒の学習意欲を維持することが、今後の課題であるといえる。自身の意見を持ち周囲の意見をまとめるなど、リーダー的に活動できる生徒もいるため、そのような生徒を中心にクラス全体で主体的に活動できる学習態度を身に付けさせたい。

４　指導と評価の計画

第１節　平面図形（１８時間）の指導計画

１　三角形の辺の比　・・・・２時間
２　三角形の外心・内心・重心　・・・・２時間
３　チェバの定理・メネラウスの定理　・・・・３時間（本時）
４　円に内接する四角形　・・・・２時間
５　円と直線　・・・・４時間
６　２つの円　・・・・２時間
７　作図　・・・・３時間

５　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　三角形、円、空間図形に関する基本的な性質について理解している。	①図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ②コンピュータなどの情報機器を	①図形やそれに関わる定理や公式のよさを認識し、事象の考察や問題の解決に活用しようとしている。 ②図形やそれに関わる定理や公式を導くことやそれらを活用したり問題解決において、粘り強く

	用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。	考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。

6　本時の計画

(1)ねらい

既習の性質や定理を組み合わせた問題を作成することで、図形問題を解くための手法や定理の設定や使用できる条件を理解する。

(2)展開

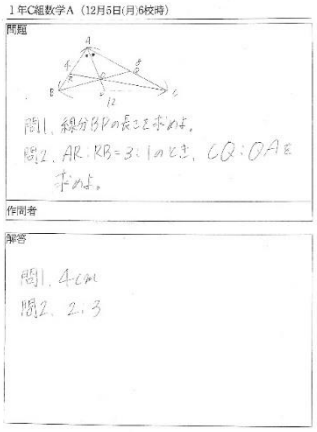
A 知識･技能　B 思考・判断・表現　C 主体的に学習に取り組む態度

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体の評価規準
導入 (5 分)	・三角形の二等分線と比の性質、外心・内心・重心の性質、チェバの定理、メネラウスの定理を簡単に振り返る。	・電子黒板に性質や定理を投影する。	・図形の性質や定理を確認している。(A)
展開 (35 分)	発問「今まで学んだ図形の性質や定理を使って解ける問題を作成しよう。ただし、性質や定理は 2 つ以上組み合わせること。」		
	・グループに分かれ、問題を作成する。さらに、解答例も考える。 ・問題と解答がまとまったら、プリントに清書する。 ・清書した問題と解答の写真をそれぞれ撮り、グループの代表者がクラスルームのストリームに問題を投稿する。	・図形の性質や定理は 2 つ以上組み合わせることを徹底させる。 ・必要に応じて、デジタルコンテンツの図形ツールを利用させる。 ・最初は、インターネットで問題を検索させない。	・図形の性質や定理に関心をもち、積極的に意見を交わしている。(C) ・図形の性質や定理が使用できる条件を理解し、問題作成に活用しようとしている。(A,B)
整理 (10 分)	・本時の振り返りとして、アンケートに答える。	・クラスルームに Foams のアンケートを配信し、回答させる。 ・次時は、作成した問題を、お互いに解答し合う活動をすることを連絡する。	

令和4年度　校内授業研究(数学科)

１　授業者より

図形の性質に入ってから、クロムブックや電子黒板などを活用し、生徒自身にデジタルコンテンツ等を操作する場面を設けてきた。本来であれば、円の性質も学習してから実施するべき内容であったが、今回は、角の二等分線、外心・内心・重心、チェバの定理、メネラウスの定理を学習したところで、この授業を実施した。１年Ｃ組は、普段から授業での反応も良く、周囲と相談したり、協力したりすることが自然にできる雰囲気のクラスである。そのため、グループ活動の形態を取っても、作業に取り組まない生徒はあまり出ないだろうとの予測の元、授業を進めた。１時間という短い時間では、難しい内容だったかと思うが、思いの外、生徒たちがよく考え、活発に意見交換をしてくれたと思う。作問はほぼ時間内で終えることができたが、解答説明を考えたり、別グループの問題を解いたりする活動なども時間を取って実施させることができたなら、図形に関する定理や性質がより深く定着できたのではないかと思う。また、今回の授業では、デジタルコンテンツ活用やストリーム配信という形で、ICT 機器を生徒自身に操作させてみた。今後も、ICT 機器の効果的な取り入れ方を模索しながら、生徒に対話的な深い学びを提供していきたい。



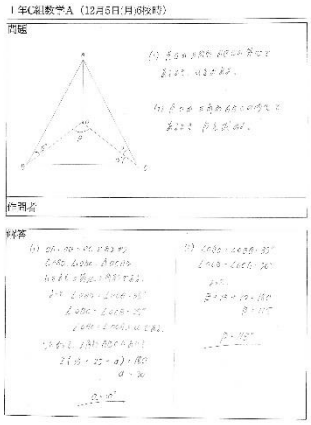
２　参観者より

・性質を 2 個以上使うというルールの縛りがきつかったように思う。使う性質や定理を、グループごとに割り当てると良かったのでは。
・意外にも、生徒達が自分たちの力で考え、作問していた。
・グループでの活動にすると、ただ座っていて意見を言えない生徒が出てくる。そのような生徒をどのように動かしていくかが課題である。

３　生徒の感想・反省（授業の振り返り）より（抜粋）

・今まで学習した定理を復習しながらどれを使えば上手く問題が作れるか考えることができた。しかし、積極的に問題を提案できなかったし、班のみんなで話し合うことができなかった。他の班の作った問題を解いていってより理解を深めたいと思った。
・たくさん試行錯誤して、どうやったら上手くいくかたくさん話し合って出来た問題が、存在しない三角形だったのはちょっと悲しかったけれども、作問の難しさや今後作問する時に気を付けるべき点が分かった。複数の定理を組み合わせるとなると、使う定理の特徴をしっかりとおさえておかないと問題が作れないので、今日はいろんな定理について良く知ることができて良かった。
・問題をはじめ作ろうとしたとき、答えが難しくなってしまわないか、また、難しい問題を作ろうなど、いろいろなことを考えたが、とりあえず図形をかき、自分で数字を入れて簡潔した状態を作ることが大事だと思った。
・今回の授業では、数学の時間では珍しいグループワークだったけれども、班の人とアイデアを出しながら問題を完成させることができた。まずは図形を描き、何の定理を使うのか決め、そしてそれぞれの値を考えた。他のグループがどんな問題を作ったのか、この後見てみたいと思った。このグループワークを通して、以前より単元に対する理解は深めることはできたが、まだ理解が不十分なところもあるので、これで終わらずに家でもしっかり復習して、次のテストで得点を取れるように頑張りたいと思った。
・今回自分たちで問題を作ってみて、難しかったけれどいい問題が作れたと思う。またグループの人と意見を出し合いながら問題を作れてよかった。
・実現不可能な問題ができてしまって、多々失敗はあったが、ある程度の問題ができたので良かった。
・自分たちで実際に問題を作ってみて難しいと感じた。先生にこの三角形はないと言われ悲しかった。今後は、

その点に注意して、しっかり勉強に取り組んでいきたいと思う。



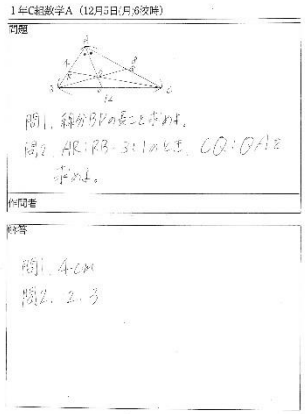
・２つ組み合わせるのが難しかった。自分たちで考えることができたため以前よりも定理の理解が深まった。問題を自分たちで作ると出題者側のセコイ気持ちなども分かった。

・実際に問題を作るのはすごく難しかったけど、グループのみんなと協力して完成させることができたので良かった。授業で聞いただけじゃわからなかったことをこの機会に理解することができた。私は今回あまり問題を考えることに携われなかったので、そこが少し残念だった。

・協力して作問することができました。もっと想像力を養いたい。

・性質や定理への理解度がもっと高まれば、それだけ色んな組み合わせの問題がつくれるようになるので反復練習で頑張っていきたいと思った。

・グループので話し合い、三角形の外心と内心を使う問題を作成することができた。自分たちで考えながら問題を作成したため、使った定理や性質を授業でやったときよりも、さらに理解度を高めることができてよかった。

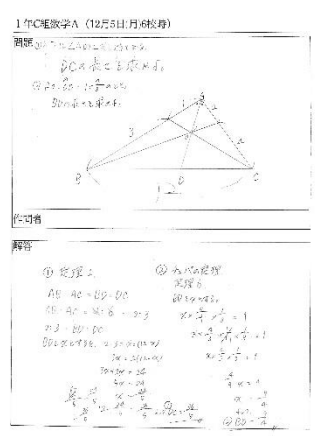


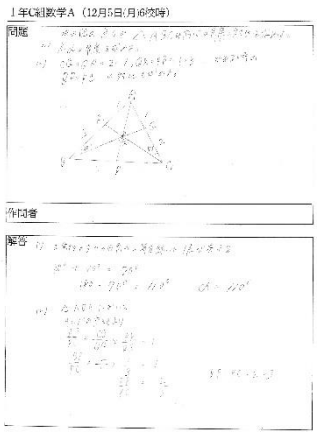
・ひねりがない問題になってしまったことが反省点。問題づくりはたのしかった。

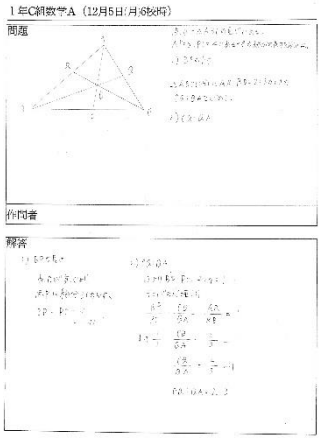
・自分で作問することによって解き方の幅が広がったと思う。

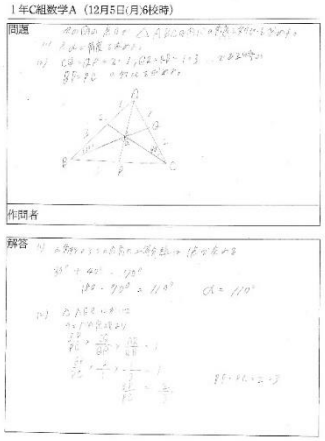
・授業だけでは理解できていなかったチェバの定理を以前より理解することができた。そもそもの定理を理解していないと問題作成ができず、個人的にかなり苦戦した授業だった。

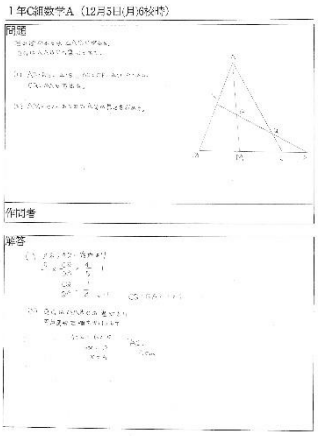
・イメージ通りにいかない部分や細かいところにも目を配ると問題作りの難しさを改めて感じることができた。難しくしようと思わず基礎的な部分を中心に作るのがベストに感じた。楽しくやれたのでまたやってみたい。

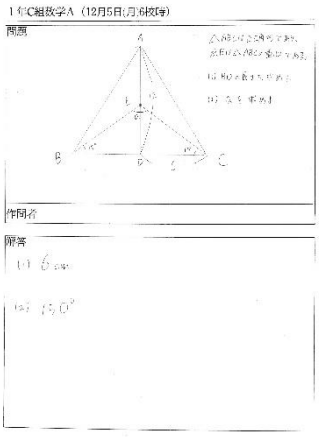


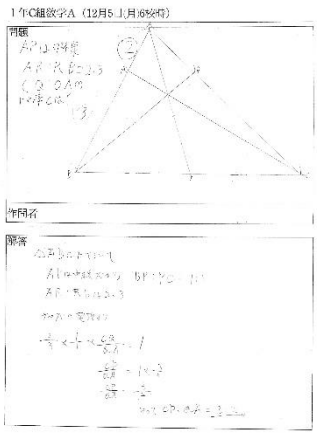


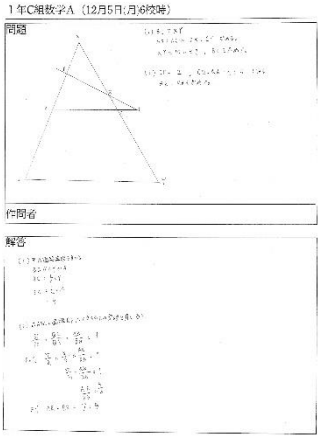












地理歴史科（日本史Ｂ）学習指導案

日　　時：令和４年11月10日（木）４校時
対象クラス：横手城南高等学校普通科
　　２年Ｂ組　選択者20名
場　　所：302教室
指　導　者：今入　健志郎

１　単元名　地方政治の展開と武士

［使用教科書：『詳説日本史　改訂版』（山川出版社）、補助教材：『最新日本史図表　五訂版』（第一学習社）］

２　単元の目標

・古代国家の推移及び中世社会の萌芽について、荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向に着目しながら進んで考察し表現することができる。
・古代国家の推移及び中世社会の萌芽に関する諸資料を収集し、情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりすることができる。

３　単元と生徒

⑴単元観

本単元では、主に平安時代を取り上げる。「古代国家の推移」については、諸地域における土地と人々に対する支配体制の動揺、公領の変質や荘園の拡大と武士の登場、摂関政治の展開や院政の成立などに着目しながら、律令体制の再編と変質について扱う。その際、諸地域の豪族や有力農民、武装集団の動向が地方の政治や社会にどのような影響を与えたかを、摂関政治の展開と関連させながら考えを深めさせたい。「中世社会の萌芽」については、荘園支配の動向や武士の成長に着目して、古代社会の変化の中に中世社会の萌芽が見られたことを扱う。

⑵生徒観

２年生普通科文型の選択者20名のクラスである。授業態度や宿題への取組（提出）状況は非常によく、与えられた課題や指示された活動に対しても協力しながら取り組もうとする姿勢が見られる。そのため、個々の歴史的事象についてはよく理解することができている。一方で、それらの関係性を考察し説明すること、自分の考えを他者に伝えることはやや苦手としている。ＩＣＴの活用により効率化を図りつつ、これまで身に付けた知識や資料から読み取った情報を対比して関係性を見いだし、グループやクラス全体に向けて発表する場面を設けるなど、生徒が歴史的事象同士を関連させて時代を大観し表現できるような支援が必要である。

⑶指導観

本単元では、主に平安時代の我が国の社会を諸地域の動向と関連付けて考察させる。その過程で、課題解決を見通し、資料から情報を選択して複数の歴史的事象を比較し、因果関係や共通性を見いだす学習活動を設ける。このようにして、情報活用能力や思考力・判断力・表現力の育成を図りつつ、多面的・多角的な見方・考え方から考察し、ＩＣＴを活用してグループやクラス全体との共有を促進することで、深い学びにつなげられるよう指導にあたっていきたい。また、本校が立地する秋田県横手市は後三年合戦の舞台となった地域である。そこで、大鳥井山遺跡をはじめとする遺構の保存・保全などの努力が図られていることに気付かせ、文化財保護への関心を高め、地域の文化遺産を尊重する態度を養うきっかけとしたい。

４　単元の指導と評価の計画（全５時間）

⑴受領と負名／荘園の発達　２時間　　⑵地方の反乱と武士の成長／源氏の進出　３時間（本時３／３）

＜単元の評価規準＞

Ａ　関心・意欲・態度	Ｂ　思考・判断・表現	Ｃ　資料活用の技能	Ｄ　知識・理解
古代国家と社会や文化の特色、文化財保護の重要性に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	古代国家の推移及び中世社会の萌芽から課題を見いだし、荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	古代国家と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	古代国家と社会や文化の特色、文化財保護の重要性についての基本的な事柄を、荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

5　本時の計画

⑴ねらい　諸資料を活用しながら後三年合戦が社会に与えた影響を読みとり、古代律令社会から中世武家社会への転換について多面的に考察することができる。

⑵育てたい生徒の姿　課題解決に向けて、社会的な見方・考え方を働かせて、事実を基に考え、説明したり話し合ったりすることのできる生徒。

⑶展開（評価の観点　A：関心・意欲・態度　　B：思考・判断・表現　　C：資料活用の技能　　D：知識・理解）

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	⑴前時のフィールドワークを振り返り、大鳥井山遺跡の保存・保全が図られていることを確認する。 ⑵大鳥井山遺跡と後三年合戦の関係性について、復習する。 ⑶本時の目標を確認する。 後三年合戦が社会に与えた影響とは？	・横手市初の国指定史跡である大鳥井山遺跡を例に、文化財保護が身近な地域においても行われていることを想起させる。 ・文献や発掘調査の結果より、大鳥井山遺跡は後三年合戦を繰り広げた清原氏の拠点であると考えられることを説明する。 ・後三年合戦の歴史的意義について根拠をもって説明することで、古代律令社会から中世武家社会への転換について考察できるようになることが本時の目標であることを伝える。	
展開 40分	⑴本時の学習活動の見通しを立てる。 ⑵資料読解 各自で資料を読み、読み取れた情報はJamboardを活用して、一つずつ付箋に書き込み、指定された箇所に貼り付ける。 資料A：「封建制度の成立」 資料B：「院政と平氏の台頭」 資料C：「奥州藤原氏と平泉文化の繁栄」 ⑶ブレインストーミング ①5人グループを組む。 ②グループで話し合いながら、Jamboard内の付箋を同じカテゴリーでまとめ、見出しを付けて相互の関係性を図示する。 ⑷論述 ⑶でまとめた情報をもとに、目標に対する答えを導き出し、学習プリントに記述する。 ⑸発表 各グループの代表者が発表する。	・学習活動の流れを図示し、時間内の目標達成を目指すよう、呼びかける。 ・必ずしも掲載順に読む必要はなく、取り組みやすい資料から読んでよいことを指示する。 ・充実した話し合いのためには、アイデアの質よりも量を重視して、思いつく限りの情報を書き出していくことが大切であることを説明する。 ・読み取れた内容を「原因ことが、結果につながった」という形で書くと、因果関係を表現しやすいと助言する。 ・机間指導により記述の状況を把握し、必要に応じて既習事項の復習を促したり、資料の着眼点を示したりする。 ・グループの編制は、普段の授業と同様であることを指示する。 ・進行者と記録者、発表者を決めさせる。 ・話がうまく進んでいないグループについては、各資料のポイントがどこにあるのか、問いかける。 ・各資料からの情報を踏まえつつ、ルーブリックを意識して、中世社会の特徴を捉えた論述を目指すよう、促す。 ・他の生徒の模範となる論述の内容を書画カメラによって電子黒板に映し出し、着眼点を具体的に示す。	C：後三年合戦が社会に与えた影響について、諸資料から情報を適切に読み取ることができる。 （観察） B：古代律令社会から中世武家社会への転換について、多面的に考察することができる。 （学習プリント）
整理 5分	⑴Google フォームで本時の振り返りを行い、学習プリントを提出する。 ⑵次時の学習内容を確認する。	・本時の学習内容を振り返りながら、自己評価をするように指示する。	

⑷本時の評価規準

・古代律令社会から中世武家社会への転換について、多面的に考察することができる。（思考・判断・表現）

・後三年合戦が社会に与えた影響について、諸資料から情報を適切に読み取ることができる。（資料活用の技能）

令和4年度　校内授業研究協議会(地歴公民科)

地歴公民科　　今入　健志郎

日　時　　令和４年１１月１５日（火）９：４０～１０：３０
参加者　　工藤育子　　高橋淳　　籾山貴文　　千葉智也　　今入健志郎

１　授業者より

今回の授業を構成するにあたって意識したのは、①新学習指導要領で求められる探究的な学び、②ふるさと教育、③ＩＣＴの活用の３点である。まず①については、導入の段階で主題となる問いを設定し、展開の段階では問いを解決するために資料を読み込み話し合いながら整理・記述を行い、整理の段階では本時の内容について振り返り次の学習につなげるというような流れにした。また、新学習指導要領で求められる「諸事象の解釈や画期を表現する学習」を目指し、後三年合戦を契機に中世につながる要素がどのように現れてきたのかを考えさせた。②については、事前に大鳥井山遺跡へのフィールドワークを実施し、後三年合戦の中心となった清原氏の拠点の実態を理解させ、身近な地域も日本の歴史に関わっていることを実感させるようにした。③については、ブレインストーミングの際に Jamboard を活用したり、振り返りの際に Google フォームを活用したりすることで、学習の効率化を図った。

扱う情報量が多く、生徒は読み取りや記述に苦労していたが、協力し合いながら前向きに取り組み、中世社会の特徴を捉えることができている生徒もいた。一方で、時間が足りず、発表や振り返りを十分に行うことができなかったことが反省点である。また、新学習指導要領が求めるような探究的な学び（生徒自身が問いを見いだし、その解決に向けて資料を収集・整理・分析し、周囲と協働しながら考察した結果を表現するような学習）にはまだ至っていない。現状では、教師側がお膳立てして誘導している部分があることは否めず、より生徒主体の授業構築に向けて指導方法の工夫・改善を重ねていく必要がある。

２　参観者より

・事前に行ったフィールドワークの様子に関心をもった。中学校などで平泉に行くような経験があれば、点と点がつながるように今回の授業との関連性が見えてきて、より理解が深まったかもしれない。
・教師による資料の準備がよくできていた。生徒もそれをよく読み取っており、慣れている様子がうかがえた。
・普段の授業の様子とは異なり、全体として静かな印象だった。教師による説明が少なく、沈黙を嫌がらない姿勢がよかった。
・教師の指示が明確だったので、生徒はスムーズに動くことができていた。話し合いも十分成立していた。
・ヒントの出し具合が適切で、生徒は他クラスの意見を参考にしつつ、自分自身でも考えることができていた。

・生徒がＩＣＴを使い慣れている印象で、普段から活用していることがうかがえた。Google フォームで問題演習や小テストを行う、Google スプレッドシートで略地図を作成させる、Google ドキュメントで資料を配付して生徒に示すなどといった使い方をしている科目もあるので、地歴公民科職員同士でも情報交換や教材の共有などを進めていくとさらに活用の幅が広がるのではないか。

・ＩＣＴにより生徒の考えが可視化されたので、どの生徒が深く考えているのかがよく分かった。単純に積極的に発言しているなど表面的な学習意欲のみを評価するのではなく、生徒の思考の深まりを評価することにつながると思われる。

・Jamboard が非常に便利であると感じた。紙の付箋だと他のグループの意見を見ることは難しいが、Jamboard を使うと簡単にそれができる。また、単に自分の気付いたことを入力して終わりではなく、話し合いにつなげることができていた。

・時間が足りず発表にまで至らなかったので、Google フォームでの振り返りも含め見てみたかった。本時は自分の考えをもつ、それを踏まえて次時では相互で共有するなど、段階を分けてもよかったかもしれない。ただ、生徒に読み取らせ、考えさせ、表現させるという本時の意図は達成できていた。

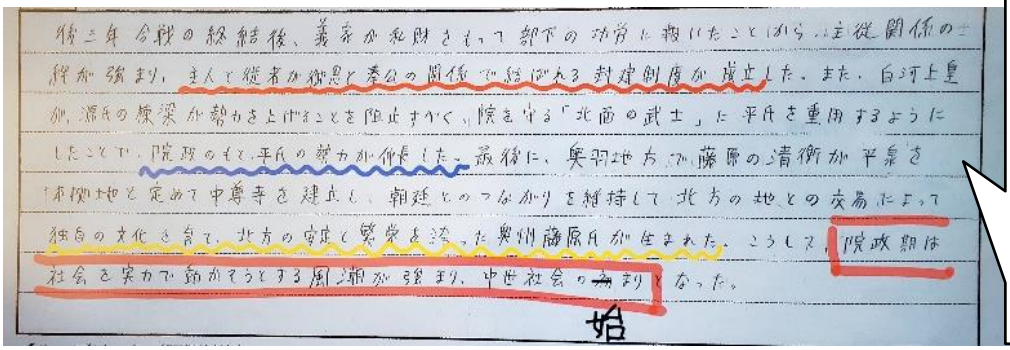
・生徒が読み取った内容を自身の力で書くことができたことに、感心した。「原因→結果」というように整理するように指示したことで、生徒はまとめやすかったのではないか。形式的ではあるが、さまざまなことを説明する習慣づけにつながる。

・探究的な学びに向けては、完全にゼロベースで最初から生徒に学習活動のすべてを委ねるのか、それとも教師が資料を提示して生徒に選ばせるのかなど、工夫の余地はある。総合的な探究の時間における学びの手法が教科の学習にも活用できることを意識させ、教科横断的な学びを目指したい。

【ルーブリック（評価基準）　※観点のうち、今回は「思考・判断・表現」を評価するものとして設定】

Ａ評価	後三年合戦が社会に与えた影響を**資料Ａ～Ｃの３観点から**捉えながら、古代律令社会から中世武家社会への転換について、テーマの趣旨に沿って論理的に説明することができる。
Ｂ評価	後三年合戦が社会に与えた影響を捉えながら、古代律令社会から中世武家社会への転換について、テーマの趣旨に沿って論理的に説明することができる。
Ｃ評価	後三年合戦が社会に与えた影響について、テーマの趣旨に沿って説明しているが、古代律令社会から中世武家社会への転換を捉えることができていない。
Ｄ評価	説明することができない。

【生徒による解答例】


後三年合戦の終結後、義家が私財をもって部下の功労に報いたことから、主従関係の精神が強まり、また従者が御恩と奉公の関係で結ばれる封建制度が成立した。また、白河上皇が、源氏の棟梁が勢力を上げることを阻止すべく、院を守る「北面の武士」に平氏を重用するようにしたことで、院政のもと、平氏の勢力が伸長した。最後に、奥羽地方で藤原の清衡が平泉を本拠地と定めて中尊寺を建立し、朝廷とのつながりを維持して北方の地との交易によって独自の文化を育て、北方の安定と繁栄をもたらした奥州藤原氏が生まれた。こうして、院政期は社会を実力で動かそうとする風潮が強まり、中世社会の始まりとなった。

上記のルーブリックより、この解答は「Ａ」と評価。

芸術科（書道Ⅰ）学習指導案

日　時：令和４年１１月３０日（水）３校時
クラス：１年A組（男子４名、女子７名、計１１名）
授業者：横手城南高校　教諭　齊藤　貴子

１、単元名　漢字の書の制作（教科書『書道Ⅰ』教育出版）

２、単元の設定理由

これまでの学習は主に中国の楷書の臨書から、用筆法やさまざまな作品の特徴、時代や人格などによって多種多様の表現があることを学習し、その特徴の把握に努めてきた。本単元では、実用面も鑑みて、創作（倣書）に取り組み、学習してきた古典の特徴を多角的にとらえ、生活や社会における書の役割や効用、書の美の意味や価値にふれ、効果的な表現の技能を身につけさせることを通し、生涯にわたり書を愛好する心情を育てることにつなげることをねらいとして設定した。

３、単元目標

（１）　楷書の制作をとおして表現の構想から完成に至る過程を工夫し、主体的に自己実現をする。
（２）　主体的・意欲的に作品を制作し、表現力を身につけて楽しく制作することができる。
（３）　相互鑑賞により、それぞれの表現意図の理解と目的に応じて多様な表現が可能となる書の良さを味わう。

４、生徒の実態

明るく素直な人柄の生徒が多く、従順に指示された課題をこなし、落ち着いた雰囲気の中で熱心に授業に取り組んでいる。書道を選択した理由もさまざまであるが、多様な書風を学習する中で、一辺倒な表現ではないことを知ってからは、主体的に表現したり積極的に行動したりと興味・関心を示し、向上心をもって表現することができるクラスである。今後はさらに、これまで臨書学習の重要性を考えさせると共に、書は実生活と密接した関係にあることを改めて認識させたいと考えている。

５、指導と評価の計画

①指導計画（全６時間）

・「今年の漢字」を考える（１時間）　・古典の特徴を基に効果的な表現を目指す（４時間）
・制作意図を的確に清書をする（１時間）・・・本時６／６時間

②評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①創造的な書表現をするために、用具・用材、線質、字形、全体の構成などの表現の技能を理解している。 ②臨書をとおして楷書の文字の骨格や線質、全体構成の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技能を習得している。	①制作の手順・方法を理解し、自らの意図に基づき詩文の選定や作品の形態、全体構成の工夫等を行い、古典のもつ伝統的な美を感受し、表現を構想し工夫している。 ②日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的にとらえている。	①自身の表現意図に基づく表現、漢字の書の特性に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 ②他者の意見等を参考にしながら書のよさや美しさを感受しその価値を考えながら取り組もうとしている。

６、本時の計画

①本時の目標　　表現のねらいを重視し、他者と協力しながら、主体的・対話的な活動をする。

②本時の指導過程

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 ５分	・本時の目標を確認する。 ・前時の振り返りをする。	・Jamboard を活用して、効果的な表現をするための改善点を振り返らせる。	
展開 ３５分	・自己の表現のねらいを整理する。	・制作意図に近づけるために、２次草稿に基づいた作品を推敲し、プリントに改善ポイントを記入して、明確化する。	
	表現のねらいを重視し、他者と協力しながら、主体的・対話的な活動をする。		
	・古典の特徴をふまえ、改善ポイントを意識して半紙に練習をする。 ・クリアファイルに清書をする。 ・完成作品を chromebook で撮影し、記録を残す。	・黒板に掲示した作品で、再度、 課題と改善点を確認させる。 ・chromebook や前時までの学習内容を活用し、構想を具現化するヒントにさせる。 ・線質、字形、構成等を含めた全体感を考慮して表現するように促す。 ・これまでの学習に留意し、集中して清書させる。 ・制作意図を基に他者のよい表現を見つけ、評価させる。	・他者の意見等を参考にしながら、自己の表現意図に基づく書表現を追求しようとしている。（ウ①②）
まとめ １０分	・本時のまとめ （学習記録と振り返り） ・後片付け	・作品の全体感をとらえて、自己評価させる。 ・授業を振り返り、共有する。	

令和４年度　校内研究授業　教科研修会（芸術科・書道）記録

期　日　　令和４年１１月３０日（水）
授業者　　齊藤　貴子

１　授業者より

年間指導計画では、「行書の学習」だが、実用書も考慮して１学期に学習した楷書の古典の特徴を基に倣書し、ファイルに書く内容を取り入れてみた。授業計画は全６時間で、時世を振り返って「今年の漢字」を考え、古典の特徴を活かして表現するのに１時間、人生を明るく照らす、来年希望がもてるようなエネルギーを得る漢字を決め、効果的な表現をするための構想を練る時間に１時間、半紙練習と配字に１時間、ジャムボードを活用して、ねらいや改善点を明確にする互評会を１時間、半紙練習と前時の表現との比較に１時間、そして本日の清書が１時間という計画で実施した。ＩＣＴを効果的に活用する授業への取り組みに力を入れているが、本来芸術科目は、実際の墨色を見たり、作品を直に見たりすることが大切だと思っている。一方で篆刻などの小作品では印影が画面上に大きく映し出されたり、ペアワークだけではなく、ページを渡ると全員の作品が一度に鑑賞できたりするなどの利点があると感じている。今回の単元では、古典の特徴をまねて書くことに加えて、生徒自身の良さや文字に対する思いを表現するように意識させた。あまり難しい内容だとすぐに飽きてしまうので、日頃から楽しみながら学ぶことができる方法を心掛けている。いつも生徒に助けられながら授業をしており、生徒はいつも通りにがんばってくれた。

２　授業をみての感想、意見

①目標設定について

・「主体的・対話的な活動をする」という目標が新鮮だった。「どのように学ぶか」という視点も大切だということに改めて気づかされた。

・授業では、目標の「主体的・対話的な活動をする」の部分は生徒にもう少しわかりやすい言葉の方がよいのではないかと思う。

②授業内容について

・生徒が考えたり、互いに協力したりしながら、よりよい表現をねらう授業で教師のねらいが生かされていた。

・クリアファイルに清書することが、背景と書がマッチするように、生徒が表現を凝らすための仕掛けにつながっていると感じた。

・最後に全員の作品を観ることができたらなおよかった。その上で、ファイル用紙との関係（どう書きたかったのか）、なぜその書風にしたのか等の説明があるとよかった。また、練習の際、半紙の左隅に一文字書いては別の紙にという具合にしていてもったいないと感じた。大きさや位置は後で調節するようにすればこうした問題も解決できるのではないか。

・ＩＣＴの効果的な使い方を実際に授業で使っている様子が観られた。生徒の中には、自

分が書こうとする文字のとなりに古典から取り出した文字を貼り付けていた。並んで字があると比較しやすく改善ポイントが見つけられる。ペアワークについては、一つの画面を二人で観たり、それぞれ観たりして、ペアの生徒達の距離感に応じて使い分けられていた。

③発問や説明の仕方について

・タブレットを活用したり、板書も工夫されたりして説明が分かりやすかった。

・指示が明確で、生徒にとって分かりやすかった。

・板書の工夫が感じられた。黒板に現在取り組んでいることを少しずつ書き足していくことで、生徒が状況を把握しやすくなっていた。

・本時の目標や授業の流れが先生の美しい文字できちんと示されていると同時に、教室には静かにＢＧＭが流れていた。行き届いた教室環境づくりにより、生徒は緊張感のあるなかにも心地良く授業に臨むことができていた。

・的確な指示がなされていた。ファイルの書き味についてなど、生徒が迷わずに済む具体的な注意が与えられていた。最後に生徒が発表する際も、具体的に指示がされていたため生徒は堂々と発表ができており、自信を育てることができていた。

④授業の流れ等の授業全体について

・導入、展開、まとめの流れが適切にされていた。全６時間の指導計画が明確だった。

・ＢＧＭが流れる落ち着いた雰囲気で、生徒は表現に集中することができていた。ＩＣＴの活用により、意見交換や作品鑑賞が効果的に行われていたことも好印象だった。

・生徒の落ち着いた雰囲気があり、タイマーを使った時間制限の中でも焦ることなく話し合うことができている。ＩＣＴを利用し、日頃からしっかりやっているのが窺える。また、ＩＣＴの活用だけでなく先生の立派な文字で黒板も併用されており、先生の文字が「生活の中の書」のお手本となっている。

・ジャムボードによる発表や、時間設定された短時間でのやりとりに慣れていると感じたが、一方で、男子生徒には時間切れの人もいた。こういう人のフォローもたまには必要ではないか。最後に代表に感想を言わせてよかったが、小さくても全員の作品を見せた方がなおよかった。

・心穏やかに私も受けたくなる授業だった。こういうタブレットの使い方や声かけの仕方があるのかと、その中に生徒との信頼関係が見られた。

・タイマーが効果的に使用されており、生徒は時間を区切られることで時間を意識しながら書くことができ、スピーディーな授業展開となっていた。また、板書の工夫が感じられた。黒板に現在取り組んでいることを少しずつ書き足していくことで、生徒が状況を把握しやすくなっていた。

３　指導助言　佐藤　哉子　先生（横手城南高校・教頭）

先生は、書道だけでなく国語、分掌業務についても計画的にこなしている。忙しい中で、ＩＣＴについても、念入りに準備し、十分に使いこなしている。書いていればいい時代から、ＩＣＴを効果的に取り入れた授業が求められる時代になってきた。ＩＣＴを使用すると、指示が増え、書く時間が足りなくなるということがよくある。今日は比較的書く枚数

は少なかったが、バランスがとれた授業だった。

一つだけあげるとすれば、「今日の課題」のところで、「個性」をどう出していくかという点は大変難しい。例えば、力強さや字の特徴を二倍にしてみると、表現したいことが強調され、個性的な表現につながることも考えられる。このように、「個性」というものは表現しにくいテーマではあるが、今後も取り組んでいってほしい。

理科（地学基礎）学習指導案

実 施 日　令和4年11月8日(火)6校時
場　　所　横手城南高校地学室
対象クラス　2年Ａ組(生徒40名)
指 導 者　百 木 慶 郎
教 科 書　地学基礎改訂版(啓林館)

1 単 元　第３部 移り変わる地球
第１章 地球史の読み方　第２節 地質と地質構造

2 単元と生徒
(1) 単元観
地層は水中で混濁流として堆積してできるので、縞模様の層理になったり、級化構造などの堆積構造を作ったりすることを実感させたい。また、グランドバンクス地震で起こった海底ケーブルの切断事件を題材として、数値データの分析を体験させ、目で見えない自然現象を科学的に調べることの重要性を理解させたい。
(2)生徒観
授業は、2 年生の文型クラスの 40 名が対象である。大学進学、専門学校進学、就職希望者が混在し、生徒間の学力の差が大きい。大学進学希望者以外の生徒にも自然科学に興味を持てるような工夫をしたい。
(3)指導観
演示実験を行って、混濁流の発生と砕屑物粒子の成層状態の形成を生徒に観察させる。次いで、グランドバンクス地震で起こった海底ケーブルの切断事件に関するデータから、混濁流の平均的な流下速度を計算させ、混濁流の流れる様子を想像させたい。

3 単元の指導目標
「地層が形成されるしくみと地質構造について理解させる。」

4 単元の指導計画と評価規準
(1)指導計画【第1章 地球史の読み方(全８時間)】
第２節 地層と地質構造(4 時間)
Ａ地層(2 時間／本時) Ｂ不整合／Ｃ地質構造(1 時間)
Ｄ変成岩とその形成／Ｅ岩石サイクル(1 時間)

(2)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技　能	知識・理解
地表の変化の様子に興味をもち，地層のでき方や堆積構造の成因について、積極的に調べようとする。	グランドバンクス地震で起こった海底ケーブルの切断事件のデータ分析をもとに、地層が形成されるしくみを合理的に考えることができる。	級化構造のできる様子を演示実験で観察し、気付きを得る。また、グランドバンクス地震で起こった海底ケーブルの切断事件のデータを正しく分析できる。	地層のでき方や堆積構造の成因について、事実に基づいて合理的に理解し、正しい知識が定着する。

5　本時の計画

(1)本時のねらい

地層の層理は水中で堆積が起こるために形成されることを実感させるとともに、混濁流の空間的・時間的なスケールを推測し、級化構造ができる仕組みを理解させる。

(2)本時の展開

ア．関心・意欲・態度　　イ．思考・判断・表現　　ウ．技能　　エ．知識・理解

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点	評価方法
導入 5 分	・地層の定義と層理の意味を確認する。 ・地層累重の法則について確認する。		・復習の内容と演示実験の装置に興味、関心を示す(ア)。	・生徒観察
展開 40 分	・演示実験の意図を説明する。 ・水槽を用いた混濁流の発生と砕屑物の成層状態形成の実験を行なう。 （実験時間 10 分程度） ・ワークシート配付。 ・グランドバンクス地震(1929)で起こった海底ケーブルの切断事件によって、海底での大規模な混濁流が初めて確認されたことを説明する。 ・原因を混濁流と考えたとき、その流下速度の時間変化をグラフに描く。	・実験の目的を生徒に説明する。 ・プロジェクターでスクリーンに投影する。 ・砕屑物の成層がなぜできるのか、生徒に問う。 ・プリントの内容を解説する。 ・ケーブルの切断が地震発生後に 13 時間続いたこと、また始めは早い時間間隔で起き、次第に切断の時間間隔が長くなっていることに気付く。	・実験に興味、関心を示す(ア)。 ・粒子の大きさによって、沈降速度が異なることに気づく(イ)。 ・平均の速さの計算が正しくできる(ウ)。 ・グラフを正しく作成できる(ウ)。 ・混濁流の流れ方を、数値データに基づいて具体的に想像できる(イ)。	・生徒観察 ・発問に対する応答(発言、挙手など) ・速さの計算とグラフ作成(ワークシート) ・発問に対する応答
整理 5 分	・本時の学習内容を振り返る。 ・次回の授業について予告を聞く。			

グランドバンクス地震に伴う混濁流の発生について
― 地層と堆積構造の形成について ―

◎混濁流（＝乱泥流）

右写真は、実験水槽の中で発生させた、細かい砂と水でできた混濁流である。周囲の水よりも密度が大きい水塊が何らかの理由で生じると、その水塊は斜面に沿って流れ出す。

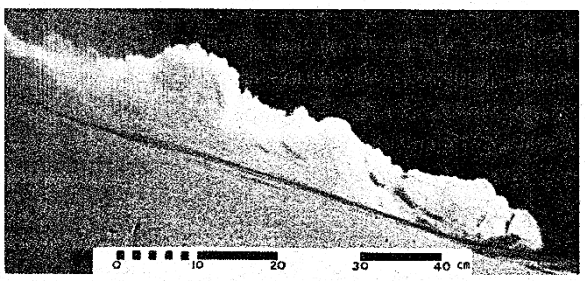


図 24.16 実験水槽中の細砂層に掘られた模型の谷を流下する，細砂と水よりなる乱泥流の実験．(Ph. H. Kuenen)

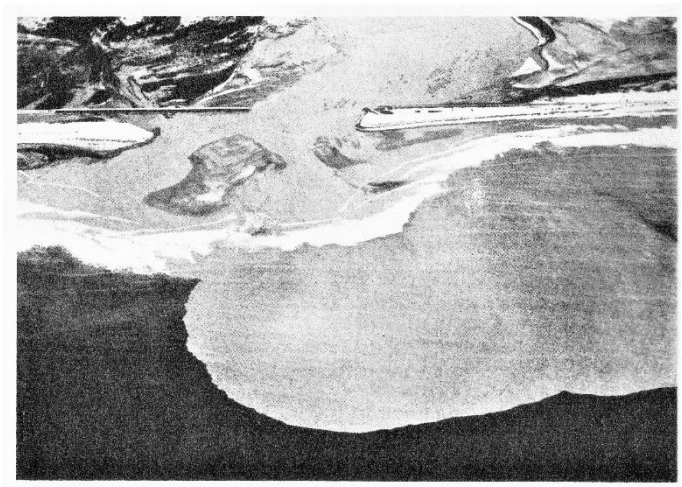


図 24.15 春の洪水時に，カリフォルニア州，ベンチュラ付近のサンタクララ川から太平洋へ流れ出す小規模な乱泥流．(U.S. Department of Agriculture: Soil Conservation Service)

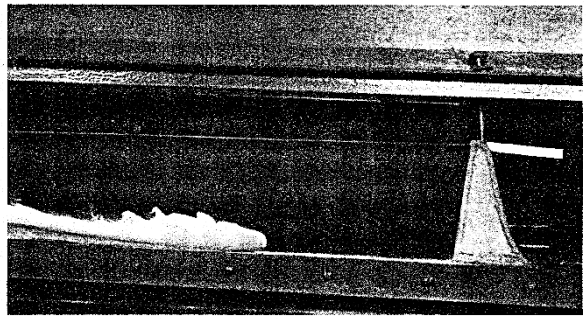


図 24.17 実験水槽中のダムに近づいてゆく乱泥流．これら2つの図に示される前面の形は，周辺の媒質より大きい密度を有する乱泥流の特徴である．砂嵐（図 22.4）や雪崩（図 20.2）も同種の流れである．(H. S. Bell, U.S. Department of Agriculture)

海の中では、大きな地震によって海底地滑りや海底土石流が発生した場合や、大規模な洪水によって河川から多量の砕屑物を含んだ濁水が流入した場合（上写真）に、混濁流が発生すると考えられる。

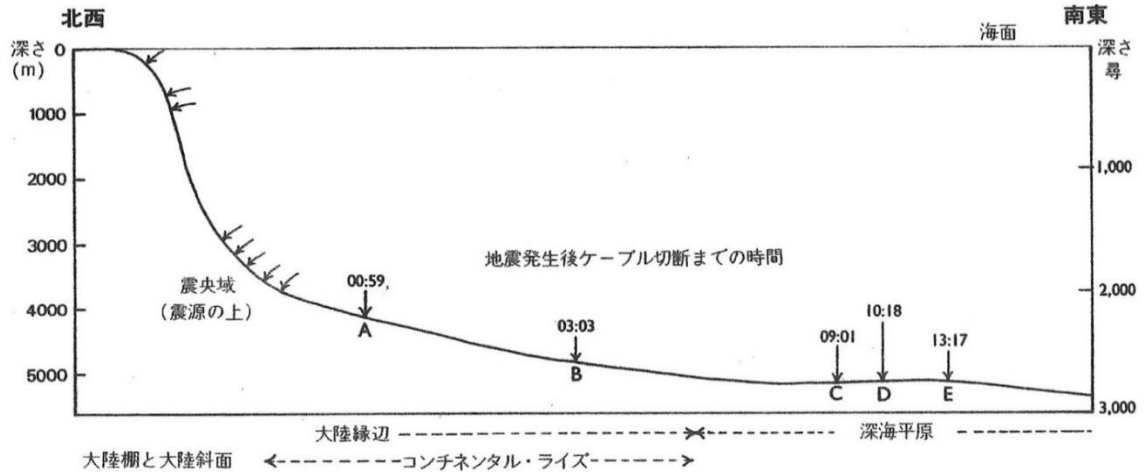
混濁流が海中で存在する確実な証拠となったのは、1929年、カナダのニューファンドランド島沖で発生したグランド・バンクス地震である。この地震の発生後、カボット海峡の海底谷に続く深海底を横断する12本の海底電信ケーブルが切断された。右図はこの海域の地図で、＊印が震央、A～E が敷設されていたケーブルのうちの5本で、短い太線は切断された場所を示す。

これらの原因について、グレゴリー（1929年）は、地震に伴って海底谷で断層運動による陥没が起こり、横切っていたケーブルが切れたと考えた。しかし、ケーブルの切断にかなりの時間差（A の切断は地震が起こってから59分後、E の切断は地震が起こってから13時間17分後）があることを説明することができなかった。

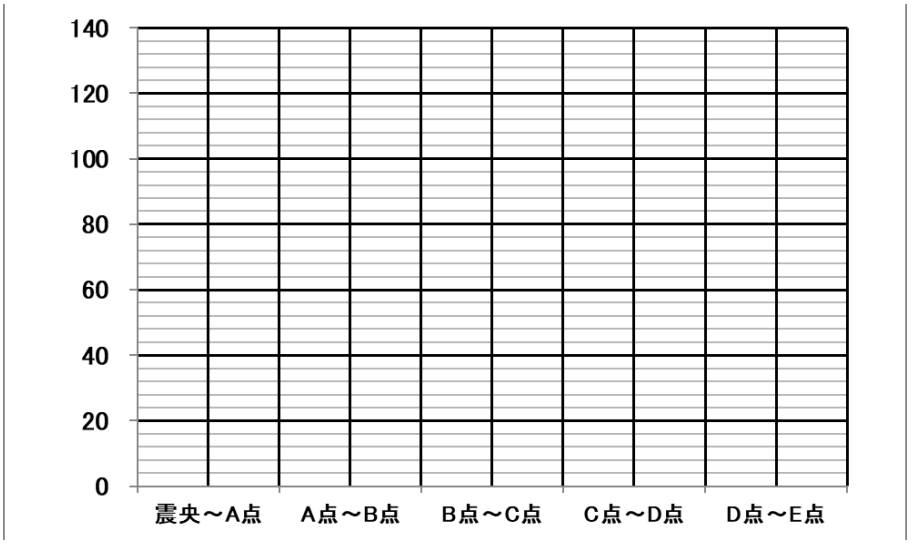
ヒーゼンとユーイング（1952年）は、大規模な混濁流が発生して、これが流れながらケーブルを切断した、と考えた。だとすると、切断は混濁流の速度に応じて、時間をおいて次々と発生したはずである。そこで、彼らはグランド・バンクス地震の記録を再検討した。その結果、震央から100km以内に設置されていたケーブルがすぐに切断されたのに対して、遠方のものほど遅く切断されたことがわかった。地震後、約13時間にわたり、近いケーブルから遠いケーブルへと、順序正しく次々に切断されていった。この一連の現象は、海底で発生した混濁流によって起きたと考えるのが合理的である。地震動により、急斜する大陸斜面上の堆積物が巨大な地すべりとなって動き出し、斜面を下って深海底に到達する間に、ケーブルを次々と切断していったのである。

【作業課題】

次図は、カボット海峡の海底谷の底の縦断面図である。点 A～点 B は、ケーブルが切断された位置である。地震発生後から切断が起こるまでの時間はそれぞれ、A で 59 分後、B で 3 時間 3 分後、C で 9 時間 1 分後、D で 10 時間 18 分後、E で 13 時間 17 分後である。また、各地点間の距離は、震央からAまでが 115km、AB＝210km、BC＝257km、CD＝43km、DE＝65km である。



震央と A の間、AB 間、BC 間、CD 間、DE 間の混濁流の平均の速さ〔km/時〕を求め、その結果をグラフに打点し、折れ線グラフを作れ。また、この分析から想像できる混濁流の動きについて述べよ。



（混濁流の動き）

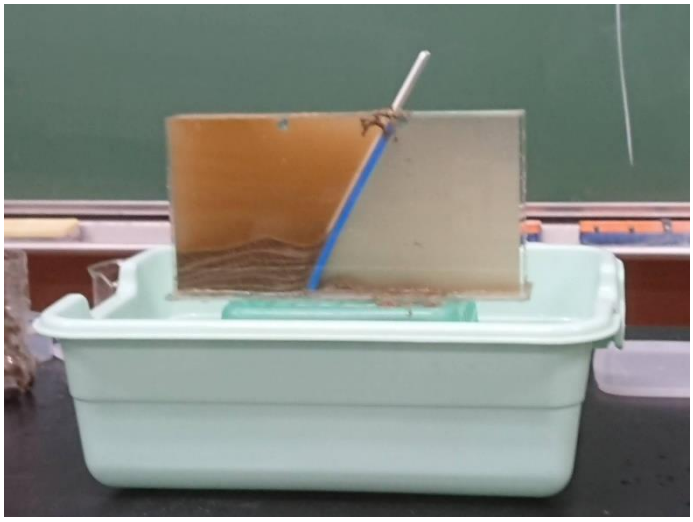
令和4年度　校内授業研究協議会(理　科)

理　科　　百木慶郎

日　時　　令和４年１１月８日（火）１５：３０～１６：００
参加者　　最上雅文　　百木慶郎　　藤井聖子　　鈴木真由美

１　授業者より

「グランドバンクス地震に伴う混濁流の発生について」という本日の内容は、教員になってから知ったもので、以前から授業の中で扱ってきたものである。「混濁流の発生と砕屑物の成層状態形成の実験」は、今では YouTube で様々な演示実験が行われている。今回はミルソーを使い、ケイ砂、川砂、山砂の３種類を用いて実験した。ケイ砂は堆積の際、上手く分けられるだろうと思っていたが、川砂と山砂は分けられない。今日の実験では、量が多かったのかなかなか上手くいかなかったので、次回は半分くらいの量で行ってみたい。今日の１時間は、全員に集中させることができ、質問をした生徒もいた。生徒には計算力がないという指摘があったため、文型の生徒ではあるが計算をさせたかった。本当であれば生徒にグラフを書かせるところまで進めたかったが、次回にグラフと分析を持ち越すことにした。この後の展開については、classroom を利用することも考えたい。



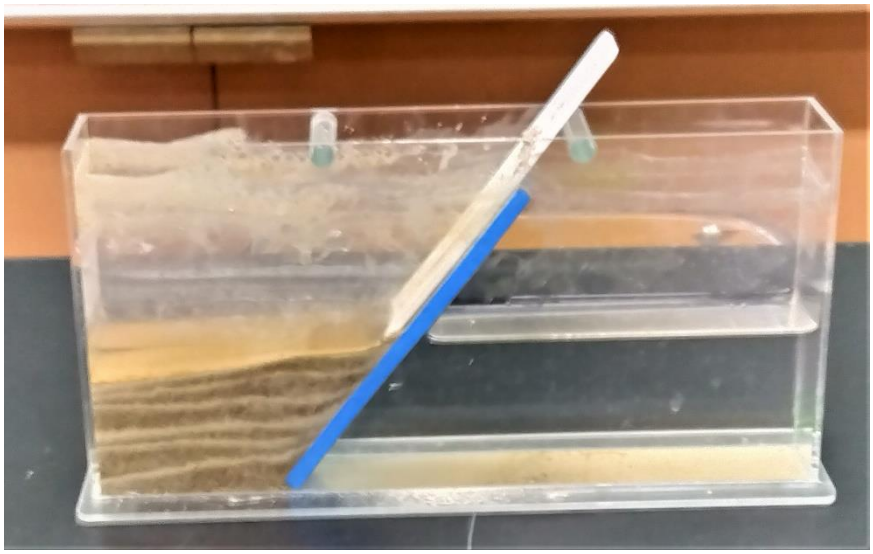
２　参観者より

・生徒は、大変真面目に取り組んでいた。計算もよく頑張っていた。
・目的の一つが計算であるならば、しっかりと達成されていた。
・分析まで進めるのであれば、計算は分担して取り組ませてもよかったかもしれない。
・演示実験も興味深いものだった。
・理型の生徒でも計算に抵抗感をもつところを、文型の生徒なのに全員がよく取り組んでいた。
・堆積の様子をはっきりと観察させるためには、カラーサンドなど色を識別しやすいものを使ってもよいのではないだろうか。
・分速を求めさせる際、自分であればはじめから分速の求め方を指示するところ、時速を求めさせてから６０倍して求めさせる方法がわかりやすかった。
・予備実験にかなり時間がかけられており、入念な準備に感心した。
・授業者の「自然界ではいとも簡単に上手くいく現象が、人工的には上手くいかない。な

んと難しいことか。」という言葉が印象的であった。

・自分が授業するのであれば、できるだけ計算をさせない方向で展開していくところを、敢えて計算させていたところが素晴らしい。

・よく研究されていた授業であった。



令和４年度教職５年目研修講座（高等学校）を終えて

国語科　小武海　春佳

・教職５年目研修講座（高等学校）Ⅰ

【日時】令和４年６月２２日（水）

【場所】秋田県総合教育センター

【日程の概要】１０：００～１０：１５　開講行事・オリエンテーション

１０：１５～１２：００　教育相談と人間関係づくり

１３：００～１４：００　学校組織の一員として　－マネジメントの視点－

１４：１０～１６：０５　生徒の実態を踏まえた授業改善①

１６：０５～１６：１５　研修の振り返り

【感想】

「教育相談と人間関係づくり」では、生徒と話す際の大切にしたい考え方や、実際の教育相談や、人間関係づくりにおける様々な技法について学んだ。今回の講義で特に重要だと言われたことは相手の話を「傾聴する」ということである。傾聴とは、相手の関心に沿って話を聞くことである。教員は普段、生徒との面談の際に、「何か困っていることはないか？」や、「何かクラスで嫌なことはないか？」などと質問してしまいがちであるが、これは教員が自分の関心に沿って相手の話を聞いているだけであり、生徒の本音が聞けないことも多い。そこで、例えば、「好きな漫画は何か？」という身近な話題の質問を投げかけ、「その好きな漫画について話せる友達はいるか？」など、生徒の人間関係などを知るための質問に変化させていく。このように、相手の関心に沿った傾聴が必要なのだ、ということを学んだ。

また、生徒指導を行う際には、「順序性」に気をつけることが大切だということも学んだ。生徒指導を行う際、まず、生徒の話を傾聴して、生徒の内面を理解し、その後話をして生徒の行為の改善を図るという順番を守ることが大切である。まず、生徒の感情や内面の受け入れを行い、その後行為の改善の指導をすることで、生徒は「先生に自分の気持ちを分かってもらえた」という安心感を抱くため、その後の教員の言葉にも素直に耳を傾けることができる。当たり前のことかもしれないが、この順番が大切なのだということを改めて認識した。

特にこの講義で印象的だったのは、「人は主観的意味づけ＝色眼鏡で人のことを見ている」というお話である。人の見え方は十人十色であり、生徒を見る際も自分の見る目だけでなく、複数の教員の目で見ることの大切さや、生徒の様子について普段から教員同士でのコミュニケーションを重ねることが重要であることを感じた。

午後は、「生徒の実態を踏まえた授業改善①」という講義を受講した。今回の研修における国語科の目標を「主体的に発問する生徒の育成のための授業展開を行う」と設定し、お互いの授業について様々な意見を交流した。今回私は、１年生の現代の国語の評論の授業において、「本文を批評読みする」という活動を行った。この活動を行った理由は、生徒が率先して文章に向き合い、「なぜこの言葉を筆者は選択したのか？」などといった疑問を抱き、その答えについて自分の考えを臆せず話せるようになってほしいと思ったからである。この授業について、先生方からアドバイスをいただいた。そして、いきなり生徒から疑問を引き出そうとするのは難しいので、まずは教員側で疑問や発問について例示することが必要だ、というアドバイスを次回

の授業展開の課題とした。また、発問の工夫ということが特に重要で、生徒が「やってみたい」「面白そう」と思えるような発問を考えることが大切であるというアドバイスもいただけた。先生方の発問の例も聞くことができ、どれも面白そうなものばかりであったため、自分も挑戦してみようと思えたため、大変有意義な研修であった。

・教職５年目研修講座（高等学校）Ⅱ

【日時】令和４年９月２日（金）

【場所】秋田県総合教育センター

【日程の概要】１０：００～１２：００　発達障害のある生徒の理解と支援

１３：００～１６：０５　生徒の実態を踏まえた授業改善②

１６：０５～１６：１５　研修の振り返り

【感想】

午前中は「発達障害のある生徒の理解と支援」について学んだ。実際に発達障害をもつ生徒と同じ感覚で文字を見たり、書いたりする体験をしたことで、彼らが普段感じている困り感を多少なりとも共有することができた。また、彼らに対する教員側の声かけの悪い例と良い例をそれぞれ学び、自分が生徒役となって声かけをされるという体験もした。「なんでそんな簡単なこともできないの？」という悪い例の声かけをされたとき、「苦労して必死にやっているのに、なぜそんなことを言うのだろう」と率直に思い、苛立ったのが印象的である。実際に自分が生徒であったらどう感じるのか、という目線で物事を見たり、言葉を選んだりすることの大切さを実感した。

午後は、「生徒の実態を踏まえた授業改善②」という講義を受講した。前回の反省点を踏まえ、「まずは教員側で発問を工夫し、提示する」という課題を設定して授業を行い、その感想を先生方と交流した。今回は１年生の言語文化の古文の授業で、『枕草子』の「はしたなきもの」を教材とし、「自分のはしたなきものは何か？」という発問を設定した。古文を身近に感じることができず、面白くないという感想をもつ生徒に向けて、少しでも古文の面白さを感じてもらえるにはどうしたらよいか考え、発問を工夫した。また、「自分のはしたなきものについて、古文で清少納言に伝えよう」という活動を設定し、現代語から古文に直す言語活動を行った。古文を現代語訳するという活動は多いが、その逆はあまり見かけない。我々が普段使っている言葉が昔はどのように使われていたのか知ることで、ただ暗記するだけの古文単語に対して興味を抱いてほしいと思ったのがきっかけである。

この授業について、先生方からアドバイスをいただいた。大きく分けると二点である。

まずは、「Ⅰ期の課題に対して今回の授業が適切な改善策ではなかった」ということだ。Ⅰ期で本校の生徒観について「話すのが苦手であったり、自分の考えに自信がなかったりして、発表に対して消極的である」という課題を提示したが、その克服に結びつく授業ではなかった。

次に、「現代文から古語に直すことが果たして必要なのだろうか」ということだ。今回の活動の目的が「古文に興味をもつ」ということだったので、これでよかったかもしれないが、目的に応じた言語活動の設定が必要であるというアドバイスをいただいた。

「５年目から１０年目までの５年間が勝負である」「積極的に様々な授業づくりにチャレンジすることが大切である」という助言をいただいたので、今後も授業改善に努めたい。

【センター研修】講座番号　Ｂ－１６生徒指導推進研修講座について

生徒指導部　柴　田　　史

令和４年６月２４日（金）秋田県総合教育センターで開催されたＢ講座１６「生徒指導推進研修講座」について報告する。

Ⅰ　研修の目標

不登校・いじめをはじめとする生徒指導上の諸課題に対応するために、必要な理論及び実践の在り方等について理解を深める。

Ⅱ　日程

１０：００～１０：１５　＜開講行事・オリエンテーション＞　開講挨拶
１０：１５～１２：００　＜講義・演習＞　いじめ問題の危機管理
１３：００～１４：３０　＜講義・演習＞　保護者との良好な関係を築く
　　―クレーム問題から考える―
１４：４０～１６：０５　＜講義・演習＞　不登校への対応
１６：０５～１６：１５　＜研修の振り返り＞

Ⅲ　講義・演習について

すべての講義・演習は、嶋﨑政男先生が御担当された。嶋﨑先生は公立中学校教諭・教頭・校長、都立教育研究所学校教育相談研究室指導主事、福生市教育委員会指導室長・参事を経て、２０１２年から神田外語大学教授、２０１７年から同大学客員教授を務めている。また、日本学校教育相談学会名誉会長、千葉県青少年問題協議会委員・いじめ対策調査会会長等を務めており、いじめ重大事態の調査委員会（第三者委員会）を務めた経験をもとに実践的な内容の講義をいただいた。講義・演習の内容は、次のとおりである。

①　いじめ問題の危機管理
　１．いじめの定義
　２．いじめの類型－いじめ発生の心理機制
　３．いじめ問題の危機管理
　４．いじめ問題の歴史
　５．「脱いじめ」を目指す５つの基本姿勢
　６．全校体制で取り組む「いじめ問題」
②　保護者との良好な関係を築く
　１．保護者との良好な人間関係作り
　２．良好な関係づくりの基礎の基礎
　３．信頼関係が崩れるとき

４．保護者の養育態度
５．マルトリートメントの理解
６．保護者とつながるコミュニケーション術・１０カ条
③　不登校への対応
１．不登校問題の危機管理
２．未然防止のための基礎知識
３．不登校問題の解決に向けて
４．不登校問題と新たな問題

特に②２・②３は今後の保護者対応で気を付けておくべき内容であったので、次に記載する。

②２：「いじめ問題で来校を求める時」の「リスペクト度」
（１）　保護者の都合を尋ねてから、時間・場所を決定しているか
（２）　約束の時間には、玄関で教員が待っているか
（３）　保護者に負担をかけないよう、座席の工夫をしているか
（４）　母親来校の場合は女性職員が加わる等、セクハラに留意しているか
（５）　保護者の着席を待って、教員が座るようにしているか
（６）　管理職（主任等）が来校者への労いの言葉をかけているか
（７）　管理職（主任等）が名刺を渡しているか
（８）　お茶を出しているか
（９）　保護者の発言にしっかり耳を傾けているか
（１０）　話し合いが終わったら玄関まで見送りをしているか
②３：保護者との対話をする時の「**よくないかかわり**」
よ：呼び出しを　職場の友に　告げられて　→直接保護者に伝える
く：暗い門　顔を隠して　くぐり来ぬ　　→「３つの**1**」リスペクト
（**1**人は出迎え・**1**杯の茶・**1**枚の名刺）
な：並びいる　教師の数に　指を折る　→「被告席」に座らせない
い：いい子とは　思いませんと　つい涙　→先に「良い点」を話す
か：過去でなく　今できること　知りたくて　→「今できること」を共に考える
か：輝く言葉　家では　光らず　→助言は具体的に分かりやすく
わ：別れ際　ごくろうさんの　声もなく　→玄関まで見送り労をねぎらう
り：理屈なら　とうにたっぷり　聞き飽きた　→保護者の声に耳を傾ける

Ⅳ　研修を受講しての感想

今回の研修は、大きく３つの観点があったが、その中でも特に「保護者との良好な関係を築く」研修が学ぶべき点が多かった。学校と保護者（家庭）とが連携し協力して生徒一人ひとりを育てていくためにも、今回の研修で学んだことを心に留めておきたい。

令和４年度秋田県薬物乱用防止教育研修会に参加して

生徒指導部
百木慶郎

日　時　　令和４年９月２９日（木）１３：００～１６：００
主　催　　秋田県教育委員会
実施方法　　Web 会議サービス「Webox Meetings」を利用したオンライン研修
内　容　（１）説　明　「秋田県の薬物乱用防止教室について」
　　秋田県教育庁保健体育課　課長　　寺田　潤　氏
　（２）講義Ⅰ　「様々な依存症～子どもたちの生き抜く技術を理解する～」
　　秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻
　　看護学講座精神保健看護学分野　教授　　米山　奈奈子　氏
　（３）講義Ⅱ　「薬物犯罪情勢について」
　　秋田県警察本部刑事部組織犯罪対策課次長　　傳野　幸衛　氏

１　説　明　「秋田県の薬物乱用防止教室について」

平成３０年８月に開催された薬物乱用対策推進会議では、第五次薬物乱用防止五か年戦略により、５つの目標が定められた。このうちの１が、青少年を中心とした広報・啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止である。この目標を達成するために必要とされることが、「学校における薬物乱用防止教育及び啓発の充実」であり、このために、薬物乱用防止教育の内容の充実強化と、薬物乱用防止教室の充実強化に取り組まなければならない。

秋田県の薬物乱用防止教室の開催状況は、令和３年度については、小学校、中学校、高等学校でそれぞれ４３．６％、９１．７％、９７．７％で、中学校と高等学校では全国平均（中学校８５．７％、高等学校８９％）を上回っているが、小学校では全国平均７１．３％よりかなり下回っている。今後も各学校で積極的に実施してもらいたい。

次に、講義Ⅰ及びⅡについて、抜粋して紹介する。

２　講義Ⅰ　「様々な依存症～子どもたちの生き抜く技術を理解する～」

①　アディクション（依存症）の診断マニュアル

依存症は、「空虚な何か」を抱えている人が、何らかの物質や行動に依存することによってそれを満たそうとしてかかる病気である。依存症の医療診断マニュアルは、アルコール、カフェイン、大麻、鎮静薬、コカイン、タバコ、ギャンブル、窃盗、ゲームについて作成されており、これらは毎年見直される。その他にも、仕事、エクササイズ、人間関係、セックスについてのアディクションがあるといわれている。

②　女性のアルコールまたは薬物依存症

女性が虐待、いじめ、性暴力、DV などを受けて抑うつ状態になったとき、地域や家庭のジェンダーバイアスの影響を受けて依存症になりやすく、クロスアディクト（複数の依存症に

一人でかかっている状態）も多い。女性の依存症については、理解者や支援者、女性のみの自助グループが少ない。女性の依存症者はトラウマ体験が原因にあることが多く、トラウマ治療で薬物依存が治まった例がある。依存している薬物に代わるサポートが必要である。

③　子ども時代の逆境的体験（ACEs）

依存症にならない人の家庭は、クッションのように「私」が幾重にも守られている。安全で安心できる環境で自分が尊重できる経験を積むことができる。一方、家庭の中に何か緊張があると、「私」の居場所がなくなる。見守られていないために孤立して放り出される経験をする。家庭の中で、虐待されたり虐待を目撃したり、ネグレクトがあったり、家族が精神疾患（うつ病、アルコール依存症など）になったり、投獄されたりすると、子どもの脳の発達と神経経路の形成が阻害されたり、免疫システムがおかしくなったりする。

これまでのACEs研究では、被験者の６４％が１つ以上のACEsを経験しており、そのうちの８７％は複数のACEｓがある。依存症になりかねない人は、多数存在する。

ACEｓにさらされ、安全でない環境で「私」の境界線を脅かされて育つと、親の責任を子どもが引き受けることになる。そして、他人の問題まで責任をとろうとする人間になる。そのような人間は、健康な人に出会うと寂しく物足りなくなり、その人と一つの関係になろうと過剰に期待する。その結果、援助しようとした人を常に裏切ることになる。

④　依存症への対処について

依存症は、つらい現実を生き延びようとして発症すると考えられている（カンツィアンの自己治療仮説）。したがって、いきなり依存物質を取り上げると、依存症者は生きていけなくなる（ハームリダクション）。依存物質を安全に使えるようにし、徐々にそれに代わる安全策を増やしていくことを考える。「ダメ、絶対ダメ」だけでは、依存症者や薬物使用者を孤立させることに繋がり、治療が難しくなる。

じっくり話を聞き、表面的な症状や言動にとらわれることなく、想像力を働かせて依存症になった背景を探ることが大事である。どんな人にも回復できる力があり、依存症者を尊重して関わることが、治療の最初のステップになる。

２　講義Ⅱ　「薬物犯罪情勢について」

①　令和３年度の薬物犯罪情勢

全国では、薬物犯罪で１３，８７８人が検挙されていて、５６％が覚醒剤、４０％が大麻による検挙である。大麻に関する犯罪は、１０代～３０代で右肩上がりに増加しており、令和３年は検挙者数５，４９０人、このうち１０代が９９４人である。

秋田県内では、令和３年の検挙者数は３０人で、覚醒剤で５人、大麻で９人と大麻が増えている。未成年者で検挙された人は、これまでいない。

②　覚醒剤と大麻の違い

覚醒剤は国外（台湾、北朝鮮、ブラジルなど）で生産され、密輸入される。暴力団が関わっており、２００kg単位で洋上取引されるとみられる。密輸入するとき、コンドームにいれて飲み込んで持ち込み国内で吐き出したり、テキーラ、ワインに溶かしたり、固形スープに練り込んだりする。混ぜたものから抽出する工場が日本国内にあるとみられる。価格は

１ｇあたり４～８万円（１０回分くらい）と高価である。

大麻は、乾燥したものや大麻リキッドで密輸入される。乾燥大麻がアメリカから電子部品に詰めて輸入されたこともある。大麻は日本国内に自生しており、その種子は鳥の餌にも使う。麻薬成分は種子にはなく、葉と花びらが麻薬となる。したがって、種子を買うことに問題はないが、栽培すると罰せられる。乾燥大麻を刻んだものをマリファナといい、花びらから作ったものをファシシという。大麻は、摂取が簡単で比較的安価なので、個人使用が目的で買われることが多い。価格は、乾燥大麻、大麻リキッドともに１ｇあたり５千円～１万円で１～１０回分になる。

③　大麻についての誤情報

「大麻に常習性がなく、使用しても大丈夫」と情報は誤りで、常習すると依存症になる。幻覚、多幸感、浮遊感、感覚が研ぎ澄まされるなどの症状を経て、頭痛、めまい、嘔吐、情緒不安定、妄想などの禁断症状が出る。大麻で満足できなくなり、覚醒剤に手を出した例もある。大麻常習者は、息の青臭さが強烈になり、見分けがつく。

カナダでは大麻の使用が認められているが、それはマフィアの資金源を断つ目的がある。乱用することによって事件が起これば、当事者は罰せられ、使用が禁止される。また、カナダで日本人が大麻を使用すると、日本の法律が適用されて罰せられる。カナダの旅行中の日本人に、大麻の使用が認められるわけではない。

④　高校生と薬物犯罪

特殊詐欺が多くなったため、現金の出し子や受け子が多数、検挙されるようになった。すると、特殊詐欺にグループがインターネットに出し子、受け子の募集をするようになった。このような闇バイトに手を出した高校生が検挙されている。薬物犯罪にも同じようなことがおきる可能性があり、注意が必要である。

令和４年度　秋田県高等学校教育研究会進路指導部会　秋季研究発表大会

「『生き抜く力』を育む進路指導・キャリア教育の在り方」について

進路指導部　今入　健志郎

令和４年１１月２９日（火）、オンラインにて開催された令和４年度秋田県高等学校教育研究会進路指導部会秋季研究発表大会について報告する。

Ⅰ　日程

１０：００～１０：１５　開会行事
１０：２０～１２：１０　分科会（就職、進学）
１３：１０～１４：４０　講演会
１４：５０～１５：２０　諸連絡
１５：２０～１５：３０　閉会行事

Ⅱ　進学分科会（研究発表）

（１）秋田県立横手城南高等学校「進路多様校で育む『生き抜く力』～横手城南高校における進路指導・キャリア教育の成果と課題～」

発表者　秋田県立横手城南高等学校　今入健志郎

発表内容については、別添の資料をご参照いただきたい。

【いただいた質問】

・新屋高校　石塚先生：令和３年度の国公立大合格者 33 名は、素晴らしい数字である。一般選抜で 25 名の合格者は、受験者の母数が多かったからではないかと思うのだが、母数や男女比について教えてほしい。また、公立の短大 12 名（H30）は多いと思う。受け皿がどこなのか、県南に短大があるのか。

・秋田高校　土門先生：生徒の可能性を伸ばすために様々な取り組みを進めていることは素晴らしい。様々なことにトライして経験させ、活動を学びに繋げていくことは、キャリア教育の面で重要である。振り返りを具体的にどのように行われていたのか、仕掛けについて教えてほしい。

【指導助言（秋田県教育庁高校教育課　指導主事　浅野朋央先生）】

・自校の実態や課題を踏まえ、進路指導・キャリア教育を教育活動全体で推進しているところが素晴らしい。なかでも、「銀杏憲章」が示すスクールアイデンティティは教育が目指すものであり、生徒にとって分かりやすく、教員にとっても指導のための目線合わせにつながる。また、生活学習アンケートを毎年実施することで指導の効果の検証・改善を進めており、今後の生徒の主体性向上が期待される。

・質疑応答にもあったとおり、見通しを立てたり振り返ったりする場面を充実させていく必要がある。生徒が自身の学びと将来とのつながりを見いだし、入試などにおいて他者に伝える際にも活用することができる。そのためには、キャリアパスポートの利用も選択肢の一つ。県のＨＰに「キャリアノート」があるので、フォーマットを参考にしてほしい。

（２）秋田県立湯沢翔北高等学校「探究活動を主とした総合型選抜への効果的なアプローチ」

発表者　秋田県立湯沢翔北高等学校　佐々木慎二　教諭

・課題研究を通じた目標…総合ビジネス科において、地域と協働した活動を進め、その経験を生かした幅広い進路実現ができるようになる。

・課題研究でのプロジェクト…湯沢発祥のスモモブランド「秋姫」の普及・愛着創出、商店街の賑わい創出に向けたチャレンジショップの実施、ミッチェリーサワープロジェクト（商標権ビジネス確立）

・国公立大学選抜に向けて…総合型選抜と学校推薦型選抜への集中、志望理由まとめシートの活用、講義動画の活用

・成果…マイプロアワード参加人数増加、プロジェクトに協働してくれた外部団体や外部の方の数増加、総合ビジネス科国公立大学合格者数増加

Ⅲ　講演「世界を舞台に活躍する人材に求められる“グローカル”な資質とは～中嶋嶺雄先生が“Be a Global Leader”に込めた心意気～」

講師　国際教養大学客員教授　齋藤弘　氏

・海外への日本人留学者数は減少に歯止め傾向。日本への外国人留学者数は増加傾向（大幅な「派遣」超）。

・数字で見る秋田県の高校留学…昨年度は２校・２名の受入（東北地方では最少）。過去 50 年を通じて見ると、全国的な傾向に反し、秋田県は大幅な「受入」超。

・高校留学がその後の人生に与える影響…異文化体験による多様性受容・グローバル基盤の育成。※コロナ禍によるデジタル留学の可能性も広がる。

・国際化＝人々が生活したり、働いたりする場所を自由に選ぶことができる。
→逆に、選ばれるためには「宣伝・アピール」が必要。
→そのために外から眺めると、秋田の良さが心に染みて分かる＝留学の真骨頂。

・グローバル化の下でのグローカル実践＝情報発信。
→世界を舞台にした情報「受・発信」のためのコミュニケーション力が必要。

・中嶋嶺雄先生が様々な「仕掛け」を組み込んだ国際教養大学…英語で学ぶ徹底した環境整備、話題の「引出」の多様化→「教養」が必須。

・高校教育で話題の「引出」を増やす→授業観・学力観のパラダイムシフト（「チョークとトーク」から「タブレットとフィールド」へ）。

・①情報受・発信が得手なＺ世代への信頼、②探究心の滋養実践、③国際教養大学での実践を生かした、「秋田モデル」の創出を！（秋田ほど「世界を舞台に活躍する人財」を育む「グローカルな環境」はない）

Ⅳ　諸連絡

・来年度の本大会について…進学司会と記録を羽後・西仙北・横手城南・角館の県南４校で協議の上決定することになる。

・来年度の東北地区高等学校進路指導協議会研究大会（福島大会）について…秋田県担当分野は研究発表（進学指導）と司会（進学指導）である。そのため、上記の４校のうち司会として選ばれた学校が、東北大会の司会も担当することになる。

Ⅴ　資料（本校の研究発表内容について抜粋）

２「生き抜く力」育成のために

●生きる力の確実な育成

・スタディサプリの活用
（Ｈ３０年度より、年次進行で全学年において採用）

・４５分授業から５０分授業に
（Ｈ３１年度より）

・朝学習、土曜教室、補習、模試　　など

１　本校の概要

創立
大正２年開校、
来年度創立１１０周年

校訓
「恕心・誠心・協心」

生徒指標
「清く、明るく、
美しく、まごころ」

沿革
Ｈ２０年度より
男女共学化

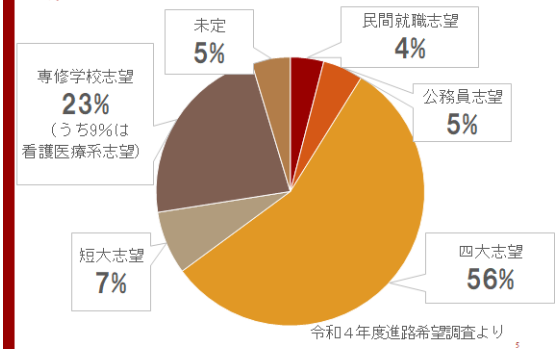
学級編制
Ｈ２９入学生より
普通科４学級編制
（１学年約１６０名）

２「生き抜く力」育成のために

・スクールアイデンティティの確立

「銀杏憲章」
（前略）
一　私たちは、恕心・誠心・協心の校訓のもと目標達成に全力を尽くします。
二　私たちは、文武両道を目指し学校生活を有意義なものにします。
三　私たちは、城南生としての自覚と誇りを持ち規律を守り節度ある行動を取ります。
（後略）

１　本校の概要



２「生き抜く力」育成のために

●自立・協働・創造に向けた力の習得

・よこての全国線香花火大会ボランティア（１年生）
・市内清掃ボランティア（１・３年生）
・田植えボランティア、にんじん収穫ボランティア
（希望者）
・暑中見舞い・寒中見舞い送付ボランティア（福祉委員会）
・横手の雪まつりボランティア（希望者、生徒会執行部）

ほか多数

２「生き抜く力」育成のために

●「生き抜く力」とは？

社会を生き抜く力の養成
（第２期教育振興基本計画（Ｈ２５～２９）基本的方向性１より）

- **成果目標１：生きる力の確実な育成（幼稚園～高校）**
- 成果目標２：課題探求能力の習得（大学～）
- **成果目標３：自立・協働・創造に向けた力の習得（生涯全体）**
- **成果目標４：社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成**

２「生き抜く力」育成のために

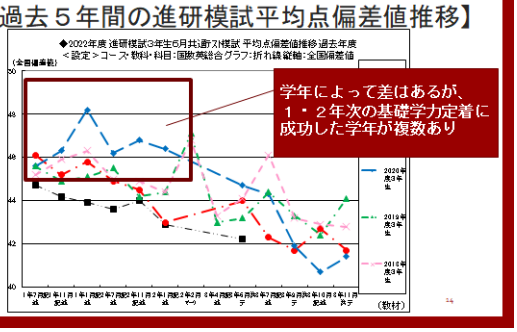
●社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成

・学部学科ガイダンス（１年）
・道標説明会（全学年）
・進路ガイダンス（全学年）
・進路講演会（全学年）
・大学見学会（１年）
・インターンシップ（２年）
・卒業生に聞く会（１・２年）
・個人面談・保護者面談（４月に面談旬間）

3　本校進路指導・キャリア教育の成果

●生きる力の確実な育成

【過去５年間の進研模試平均点偏差値推移】

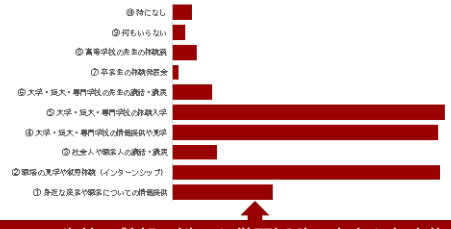


3　本校進路指導・キャリア教育の成果

●社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成

【在学中に体験したい活動】

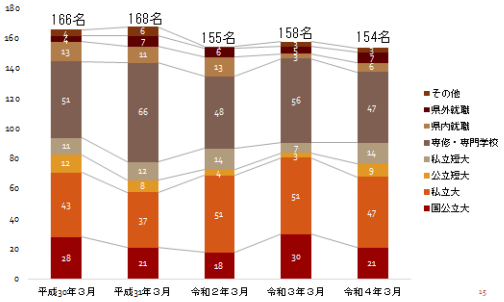
～生徒対象「生活学習アンケート」より～



生徒の希望に沿った学習活動はおおむね実施

3　本校進路指導・キャリア教育の成果

【過去５年間の進路結果】

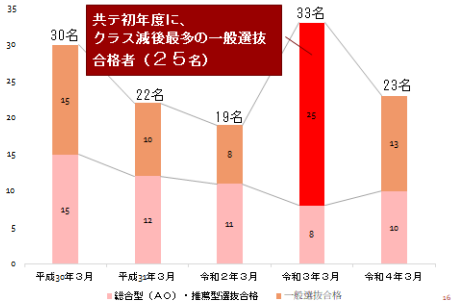


4　本校進路指導・キャリア教育の課題

学力の底上げが不十分	生徒が奮起する刺激となるような機会が必要？
生徒の主体性に難あり	コロナ禍における生徒自らが調べ、考え、選択する機会の工夫が必要？
保護者の感覚との微妙なズレ	情報共有を進める手段の検討が必要？
指導の多角化による負担増	生徒の実態や社会の変化に合わせ、「選択と集中」が必要？
各学年・教科・個人単位の指導が中心	組織的な指導体制への転換が必要？

3　本校進路指導・キャリア教育の成果

【過去５年間の国公立大学入試結果】



5　今後の展望

【デジタル教育　未来へRUNプロジェクト事業】

★プロジェクト2　普通高校におけるデジタル人材の育成

▸▸▸ ９校の普通科に『デジタル探究コース』を新設します。

令和４年度	令和５年度
大館国際情報、仁賀保、湯沢、羽後	新たに５校程度設置予定
令和６年度から計９校で本格実施（令和８年度まで）	

【Google社からの支援】情報リテラシー教育やコンピュータサイエンスに関する学習支援
Google エンジニアとのオンラインセッションの実施
【外部人材の活用】県内ＩＴ関連企業やＩＴ分野の著名人による講話等の実施

（『教育あきた』令和４年６月号（No.755）より引用）

来年度より本校にも設置が検討中

3　本校進路指導・キャリア教育の成果

●自立・協働・創造に向けた力の習得

～生徒対象「生活学習アンケート」より～

人と話をするときには、自分の意見を積極的に言う

みんなといっしょに仕事をするのが好きである

新しいことは何でも「見てやろう」「知ってやろう」と思う

▪①よくあてはまる　▪②少しあてはまる　▪③どちらともいえない
▪④あまりあてはまらない　▪⑤まったくあてはまらない

まとめ

- 多様な進路希望に応じた、きめ細やかな指導
- 生徒や保護者、地域からは一定の評価
- 生徒の学力や主体性向上を目指し、教育活動の組織的な検証・改善が必要
- 「デジタル教育　未来へRUNプロジェクト事業」の成否が今後のカギ？

令和４年度　芸術系教科等担当教員等全国研修会について

芸術科　美術　糯田　亜希子

令和５年２月１３日（月）、武蔵野美術大学で開催された令和４年度芸術系教科等担当教員等全国研修会　中学校美術科・高等学校芸術科（美術）　中高美８　について報告する。

Ⅰ　日　程　　９：３０～１０：２５　開講式
　　９：４５～１０：２５　全体研修
　　１０：４５～１１：４５　理論研修
　　１３：００～１６：００　テーマ別　実践研修
　　１６：２０～１６：４０　全体講評

Ⅱ　開講式　　文化庁参事官学校芸術教育室長　岩間光彦氏

令和元年度より芸術系教科等担当教員等全国研修会を実施している。令和 2～3 年度は新型コロナウィルス感染症の影響でオンラインの実施となった。今年度、対面とオンラインどちらも設けている。理論研修は各教科などの学習指導要領のポイント等を確認し、実践研修では学習指導要領の趣旨やねらいの実現を目指す実践的な部分をめざしている実り多い研修としてほしい。

Ⅲ　全体研修　　文化庁参事官(芸術文化担当)付教科調査官
　　(併)文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官　小林恭代氏

学校における芸術教育の充実に向けて、芸術系教科が文化庁に移管された。全国規模の研修も実施できるようになったのも文化庁に移管したことによる。

Society５．０により多くのことをコンピュータやロボットが動いている。このような社会において人間らしく豊かに暮らしていくことが必要になる。文化芸術は人々の創造性を育み、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互理解多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものとしての価値、また、世界の平和に寄与する等の本質的社会的経済的価値を有している。文化的で豊かな人生を享受する社会を実現することが文化芸術に期待されている。そして、学校も併せて変化していくことが必要になる。与えられた知識を身につけるだけでなく自分自身で新たな価値や納得解を生み出す力が求められている。

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 Society５．０時代を見据えた芸術教育のあり方についてでは、これからの社会を生きるすべての子供達に求められる資質・能力の育成における芸術教育の意義について示された。実体験を通して醸成される豊かな感性、多くのアイデアを生み出す思考の流暢性、感性や知性に基づく独創性、対話を通じてさらに世界を広げる想像力、ものを作り上げる力が重要であると示されている。

芸術教科は本来、一人一人の見方、感じ方を大切にしてきた。画一的な指導になっていないかを振り返ることが必要になる。GIGA スクール構想の実現における ICT 活用によって個に応じた指導を充実してくことが重要である。ICT は空間的、時間的制約を超えた学びを可能にしている。文部科学省ではスタディ X スタイルというサイトを運営しており、芸術系教科も事例を紹介している。YouTube でも ICT の活用についても紹介している。著作権について文化庁は HP で資料を示しているので確認してほしい。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」の概要について確認する。急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力と日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについては教育振興基本計画の理念の継承、学校における働き方改革の推進、GIGA スクール構想の実現、新学習指導要領の着実な実施とある。一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともにあらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となることができるようにすることが必要となる。

Ⅳ　理論研修　文化庁参事官（芸術文化担当）付　教科調査官
文部科学省初等中等教育局　教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官　平田　朝一　氏

今回の改定で課題となっている表現と鑑賞の指導の関連について以下のように改善している。学習指導要領「A表現」（1）発想や構想に関する資質・能力　ア　感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想　イ　目的や機能などを考えた発想や構想　「B鑑賞」（1）鑑賞に関する資質・能力　ア（ア）感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現に関する鑑賞（イ）目的や機能などを考えた表現に関する鑑賞 となっており、「A鑑賞」「B鑑賞」の指導について相互に関連を図り、発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習を深められるようにしてほしい。

指導計画の作成と内容の取り扱いについて資質・能力の育成に向けて生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現および鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。題材などのまとまりの中で、生徒自身の変容を自覚できる場面をどこに設定するか？対話によって自分の考えなどを広めたり深めたりする場面をどこに設定するか？深い学びの実現に向けた鍵として教科の本質として造形的な見方・考え方を働かせを大切に捉えてほしい。

共通事項とは表現および鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力を育成する観点から、造形的な視点を豊かにするために必要な知識を共通事項としている。造形を豊かに捉える多様な視点として木を見る視点（形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉える視点）、森を見る視点（全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉える視点）としている。

ICT 端末の活用に関しては、題材の狙いに応じて吟味し活用すること自体が目的にしてしまわないよう、十分に留意することが必要である。

評価について、「知識・技能」では〔共通事項〕に示す「造形的な視点を豊かにするための知識」として形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果を理解することや、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解することについて評価するものである。ここでの知識は、表現や鑑賞の場面において、学んだ知識を活かして形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴からイメージを捉えたりできるようになるなど、暗記の知識ではなく、美術の学習の中で生きて働く知識として実感的に理解した実現状況を評価することが求められる。「知識・技能」（技能）の評価では、技能は制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって現れるものである。そのため制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、生徒の創造的に表す技能の高まりを読み取ることが大切である。「思考・判断・表現」（発想や構想）の評価では、制作が進む中で徐々に具体的な形になり、更にそこから深まることが多い。そのため制作途中の作品を中心に完成作品からも再度評価し、生徒の発想や構想に関する資質・能力の高まりを読み取ることが大切である。「思考・判断・表現」（鑑賞）の評価では、鑑賞的な活動が位置づけられていても、それが発想や構想に関する学習を深めるための活動であったり、主体的に学習に取り組む態度を高めるための活動であったりすることも考えられるため、活動のねらいを確認するなど評価規準の設定には留意する必要がある。「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、生徒が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を身につけようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう主体的な学習に対する態度である。是非、生徒達の様々な場面を追って見守っていただきたい。

Ⅴ　テーマ別　実践研修
①未来をイノベーションする植物（WS）
武蔵野美術大学　造形構想学部　クリエイティブイノベーション学科研究室　講師　石川卓磨

今回の会場大学である共創デザイン教育を実践されている武蔵野美術大学の造形構想学部クリエイティブイノベーション学科ではアートやデザインの視点を社会に生かしていく学びをしてお

り、８０名の定員の中には元々美大志望ではない社会学、理系志望の学生も多くいる。大学院ではプロジェクト実践型のカリキュラムで身についた能力を生かし、さまざまなフィールドで活躍する人材の育成をめざしており、起業やスタートアップの実践、クリエイティブマネジメント、先端メディア表現マネジメントを担う職種としての就職、ビジネス戦略・社会システム戦略・映像プロデュース戦略等を担う職種での活躍を目指している。博士課程と社会人が参加できるスクールも開設し社会に開かれたクリエイティブイノベーションの人材育成をしている。

美術教育は複数教科の知識に紐付いた好奇心を育成する器としての役割がある。美術には答えがないからこそ学びを拡げる可能性がある。中学校高等学校における美術教育では作品づくりを通した「表現」と「鑑賞」が一般的であったが、むしろ”造形教育”を通して育まれる想像的「思考力、判断力、表現力」における発想や構想の能力を中心として生徒が自己実現を果たしていく態度の形成を図る指導が必要である。未来をつくることは、フィクションと構想することであるが、SF 小説を考える際を例えて、フィクションを成立させるために色々と調べるはずである。作品をつくるためにも調べる。美術は背景に知識が凝縮している。アイデア出しをして、情報を他と共有するとクラスが進化していく。今回の「人間社会に変化を与える新しい植物をデザインしなさい。」の基となった事例は歴史上植物が社会を変えた事例が沢山ある。紅茶やコーヒー、チューリップなど。「世界史を大きく動かした植物」（PHP 文庫稲垣栄洋）書籍を参考にしてほしい。

後半ワークショップとして、アートやデザインを社会に生かしていく美術教育の可能性を拡げるクリエイティブイノベーション体験プログラムを実施。「人間社会に変化を与える新しい植物をデザインしなさい。」という題ですすめられた。付箋紙を用いてアイデア出しをし、相性の良いアイデアを組み合わせたり、現実的日常的なものも保ちつつ、どこにフォーカスするのかグループ内でストーリーを話し合う。美術とイノベーションの相性のよさは、知識やストーリーを専門家だけのものにせず、すぐにイラストなどのようにビジュアル化することで共通理解に繋げる形とすることができることが大きい。共同作業する際に過程が大切で、イメージを持つためにビジュアル化する人、内容を深めるための話し合いを進めていくファシリテーター、話を引っ張っていく人や、話を回す人、調べる人、まとめるためにプロトタイプを作る人など個々の協力が必要である。デザイン思考では思わぬ方向に発散しがちなまとめでも、この共創型デザイン思考を用いてより発展的に知識を用いたアイデアのまとめが可能であると実感できた。他教科や、総合的な探究の時間でも活用できるプログラムであるとアドバイスを受けた。次年度より担当する教科、探究活動、部活動の場で実践していきたい。

②これからの社会におけるアート教育とデザイン教育（講義）

武蔵野美術大学造形構想学部　クリエイティブイノベーション学科研究室　教授　長谷川淳士

「これからの社会におけるアート教育とデザイン教育」について長谷川淳士教授の講義では、アートの今について説明を受けた。アートを学ぶ意味はアーティストの視点をもつことで、観察から表現による新しい視点の獲得、自己の肯定、主体性・当事者性の発露、社会への問題提議である。様々な思考法があるが、２０００年頃からのロジカル思考は顕在的課題の解決、２０１０年頃からのデザイン思考は潜在的課題の解決、２０１５年頃からのアート思考は価値の革新。自

ら「つくるもの」や「つくる活動」が学びとする（コンストラクショニズム）。プログラミングにおける「デバック」行為こそが学習である。プログラミング学習であるScratchは創造性教育環境が整っている。等の説明を受けた。

アートを学ぶ意味は、観察力（自分自身の視点、スキーマー（常識や経験）を超える）、批判力（多面的な視点、批判的な思考）、構想力（発想を展開する、社会への問題提起）を身に着けることである。アートとデザインが求められる社会背景として、テクノロジーの発展、モノからサービスへ、体験重視のビジネスの変化、循環経済型、経済、政治、国家の変化それらVUCAの時代がある。VUCAの時代は厄介な問題の時代である。正解のない問い、Wicked Problems解き方がなく、正解のない、客観的な解決判定が不可能である。社会が直面している問題への対処法として、これまでは仮説を元にして実行をおこなって、仮説が見つからないことがあった。デザインの考え方としてとりあえずやってみるから仮説・実行を得る方法（アブダクション思考）が示された。ビジネス、社会活動、日常生活におけるデザインアプローチ習得の意味について、ユーザ中心であること、発散と収束・課題探索と解決探索、アブダクション思考（試しに作ってみることから得られる仮説）である。

ソーシャルイノベーションについて。社会のニーズを満たすと同時に新たな社会的関係や協働を生み出す新しいアイデアを示している。社会のためになり社会の行動力を高めるイノベーション。社会の差し迫った問題の解決には既存の構造や政策では不可能であることがわかった。これからの社会では人々が広義のデザインアプローチを活用しながらプロジェクトの実践をおこなっていく「ソーシャルイノベーションの時代」となっていく。有名なプロジェクトとして、囚人の社会復帰のためのレコードレーベル「In House Records」がある。

最後に、社会において「デザイン」や「アート」の理解促進の必要性と対話の重要性が求められている。「デザイン」「アート」を学ぶ環境づくりとしてこれからの「デザイン」「アート」教育や教育者の育成が必要となる。図工・美術の教育の役割、「探究型学習」との接続、社会における美術大学の役割が求められる。

Ⅵ　全体講評

各６大学で実施している各研修内容について報告を実施した。最後に平田調査官より今後今回の研修を次の授業に生かしていただきたいと指示があった。生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わって生活に根ざしていく社会の中で子供達が今後どう関わっていくのか見据えて授業を考えていく必要がある。今回の研修はそれぞれ内容の濃いものを共有することができていた。先生方が元気に、大好きな美術教科でチャレンジしていく姿を見て、子供達が頑張ろうとする気持ちになっていく。ぜひ子供達のためにチャレンジしていっていただきたい。

Ⅶ　まとめ

新学習指導要領の表現と鑑賞の関連を図ること、観点別学習状況の評価の観点について内容のまとまりごとの評価基準や評価のタイミングについても今回詳しく確認することができた。今回の改訂で共通事項について新たに高等学校で示され、表現や鑑賞の学習において造形的な視点を豊かにするために必要な知識として明確な位置づけがなされたことで授業への運用の糸口がみえてきた。美術教科において、絵画、彫刻、デザイン、メディア表現の分野があるが分野の垣根にとらわれないアート思考（社会問題定義、価値の革新）やデザイン思考（人の役に立つデザイン、潜在的課題の解決）にフォーカスアップされた研修であった。アートやデザインを社会に生かしていく美術教育の可能性としてクリエイティブイノベーション体験を今後授業や探究活動にも生かしていくことができるよう研鑽を積みたい。

令和4年度　第2回生活･学習･進路に関するアンケート集計結果

横手城南高等学校　研修部

１　実施期間　令和４年１０月２７日（木）～１１月４日（金）

２　目　　的　生活や学習に関する現状を把握し、今後の生活指導、学習指導、進路指導に活用するための資料とする。

３　実施方法　質問用紙を配付し、Chrome Book を使用して「Google Classroom」に入力させ、「Google Forms」および表計算ソフト EXCEL で集計した。

４　回 収 率　１年生 156 名（在籍数 159 名）　98.1%
２年生 146 名（在籍数 155 名）　94.2%
３年生 157 名（在籍数 157 名）　100 %
全　体 459 名（在籍数 471 名）　97.5%

５　質問事項（37 問）

質問１　本校に入学した動機は次のどれですか、1 個選んでください。
① 自分の学力にふさわしいと考えたから　② 進学に有利だと考えたから
③ 就職に有利だと考えたから　④ 通学に便利だと考えたから
⑤ 部活動で頑張りたいと考えたから　⑥ 親や中学校の担任の勧めから
⑦ その他の理由から

質問２　本校に入学して満足していますか。1 個選んでください。
① おおいに満足している　② だいたい満足している
③ 少し不満を感じている　④ かなり不満を感じている

質問３　高校卒業後はどのような進路を考えていますか。1 個選んでください。
① 国公立４年制大学進学　② 私立４年制大学進学
③ 短大進学（国公私立）　④ 医療系専門学校へ進学
⑤ 医療系以外の専門学校へ進学　⑥ 就職(公務員)
⑦ 就職(民間)　⑧ 未定

質問４　得意な（どちらかといえば得意な）教科はどれですか。1 個選んでください。
① 国語　② 数学　③ 英語　④ 地歴公民　⑤ 理科
⑥ 情報　⑦ 家庭　⑧ 保健体育　⑨ 芸術　⑩ 特にない

質問５　苦手な（どちらかといえば苦手な）教科はどれですか。1 個選んでください。
① 国語　② 数学　③ 英語　④ 地歴公民　⑤ 理科
⑥ 情報　⑦ 家庭　⑧ 保健体育　⑨ 芸術　⑩ 特にない

質問６　家庭での平日の学習時間は、ふつうどれくらいですか。1 個選んでください。
① ほとんどしない(30 分未満)　② 30 分～1 時間　③ 1 時間～2 時間
④ 2 時間～3 時間　⑤ 3 時間～4 時間　⑥ 4 時間以上

質問７　家庭での学習の状態はどれに該当しますか。1 個選んでください。
① 学校の宿題で精一杯である　② 宿題と予習で精一杯である
③ 宿題と予習以外の勉強もわりとできる　④ 宿題も予習も満足にできない

質問８　授業でわからないことがあったとき、どうしますか。1 個選んでください。
① 先生に質問する　② 補習に参加して分かるように努める
③ 友人に教えてもらう　④ 塾や通信添削を利用する
⑤ そのままにしておく

質問９　平日の睡眠時間は、どれくらいですか。1 個選んでください。
① 5 時間以下　② 5 時間 30 分　③ 6 時間　④ 6 時間 30 分
⑤ 7 時間　⑥ 7 時間 30 分　⑦ 8 時間以上

質問 10　平日（月曜日～金曜日）に朝食は食べていますか。1 個選んでください。
① 毎朝食べる　② ときどき食べないことがある　③ ほとんど食べない

質問 11　平日の帰宅時刻（自宅に着く時刻）は、ふつう午後何時ころですか。1 個選んでください。
① 5 時前　② 5 時 30 分ころ　③ 6 時ころ　④ 6 時 30 分ころ
⑤ 7 時ころ　⑥ 7 時 30 分ころ　⑦ 8 時ころ　⑧ 8 時 30 分ころ
⑨ 9 時以降

質問 12　家庭では保護者と会話しますか。1 個選んでください。
① よく会話する　② 時々会話する　③ ほとんど会話しない

質問13　あなたは自分の健康状態をどう思いますか。1個選んでください。
① とても健康　② まあまあ健康　③ あまり健康でない

質問14　高校在学中に体験したい活動は何ですか。次の①～⑩について、優先順位の高いものから順番に、3個選んでください。
① 身近な産業や職業についての情報提供　② 職場の見学や就労体験（インターンシップ）
③ 社会人や職業人の講話・講演　④ 大学・短大・専門学校の情報提供や見学
⑤ 大学・短大・専門学校の体験入学　⑥ 大学・短大・専門学校の先生の講話・講演
⑦ 卒業生の体験発表会　⑧ 高等学校の先生の体験談
⑨ 何もいらない　⑩ 特になし

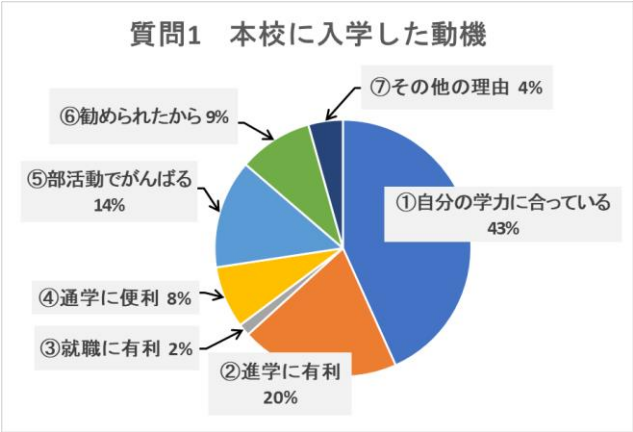
質問15　自分の進路を決めるにあたって、気がかりなことは何ですか。
次の①～⑩について、優先順位の高いものから順番に、3個選んでください。
①学力が足りないかもしれない　②自分の適性がわからない
③自分のやりたいことが見つからない　④社会人として自立する自信がない
⑤情報を集めたり、選んだりする方法がわからない　⑥自分のこととして決断する自信がない
⑦経済的に希望通りにならないかもしれない　⑧特になし

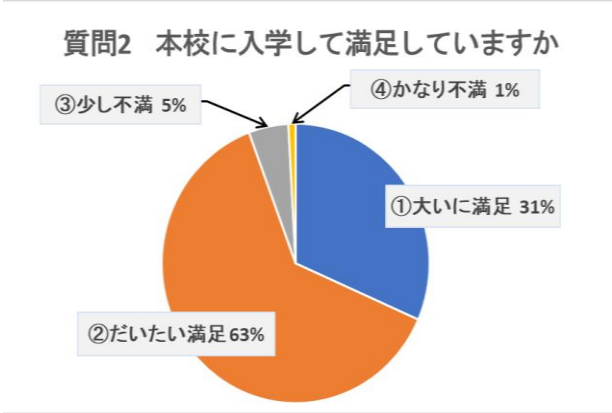
◎次の質問についてそれぞれ，選択肢①～⑤のうちの 1 つを選んでください。

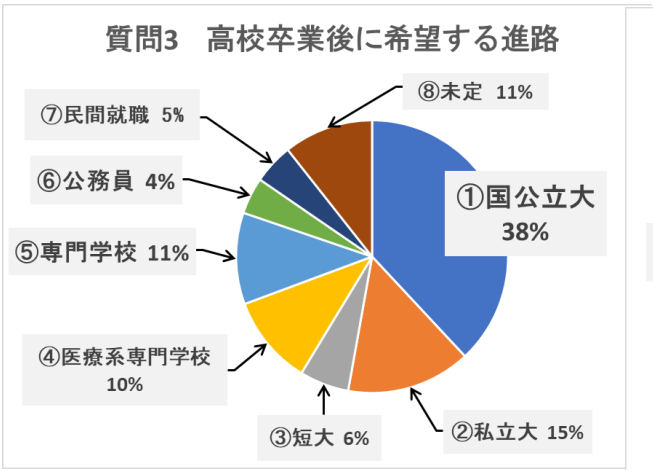
①よくあてはまる	②少しあてはまる	③どちらともいえない
④あまりあてはまらない	⑤まったくあてはまらない	

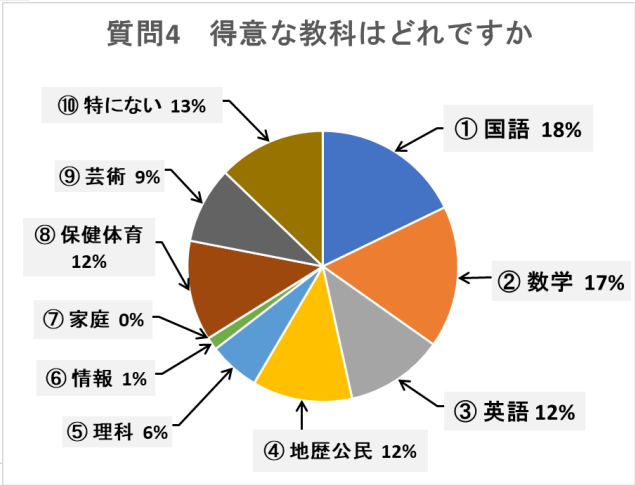
質問 16　時間を守り、規則正しい生活をするのは得意である
質問 17　どちらかといえば、慎重で注意深い性格である
質問 18　普段は落ち着いているほうで、めったに取り乱さない
質問 19　人と話をするときには、自分の意見を積極的に言う
質問 20　あれこれ考えるより、すぐに行動することが多い
質問 21　いったんやりかけたことは、最後までやらないと気が済まない
質問 22　新しいことは何でも「見てやろう」「知ってやろう」と思う
質問 23　みんなといっしょに仕事をするのが好きである
質問 24　絵や音楽、演劇などの創造的な芸術活動に興味がある
質問 25　文章を書いたり、読んだりする創作･評論活動に興味がある
質問 26　会計や正確さを必要とする事務的な仕事に興味がある
質問 27　人に会って交渉や取引をしたり、商品の販売をすることに興味がある
質問 28　人々のために奉仕し、援助することに興味がある
質問 29　屋外や自然の中での作業や、農作物を育てることに興味がある
質問 30　機械の製作や修理、または工具･機械を使って作業することに興味がある
質問 31　自然の成り立ちや仕組みを調べ、明らかにする研究活動に興味がある
質問 32　物事を事実に基づいて判断し、理解することができる
質問 33　文章を正しく理解し、考えを言葉や文章で表現することができる
質問 34　物事を科学的に考え、研究･実験･調査することが好きである
質問 35　機械を上手に操作し、工具を器用に扱うことができる
質問 36　速く、正確に計算結果を出すことができる
質問 37　数値や文書を書き写したとき、写し間違いがないか素早く正確に確認できる

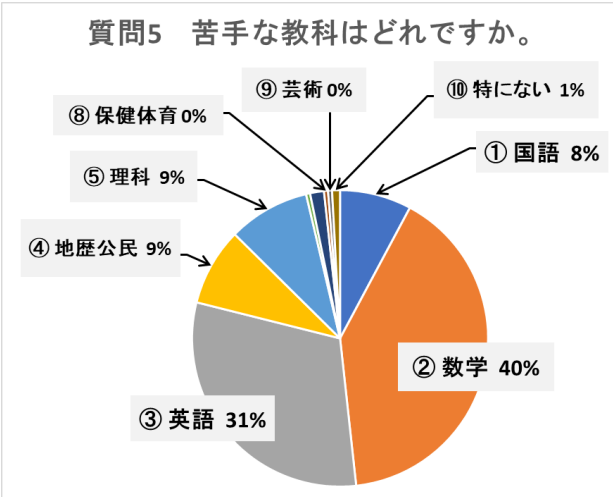
６　集計結果

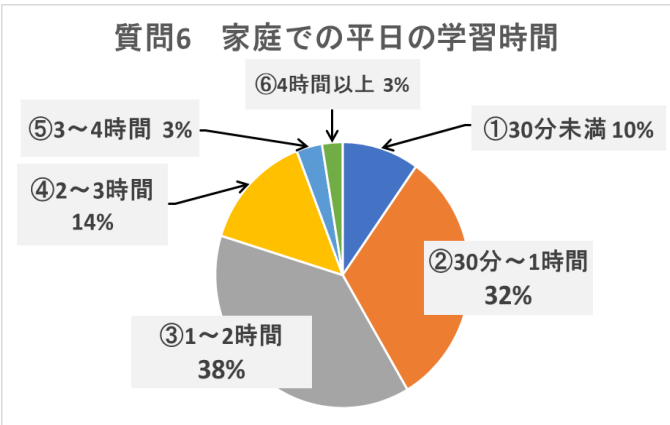

質問1　本校に入学した動機
⑦その他の理由 4%
⑥勧められたから 9%
⑤部活動でがんばる 14%
①自分の学力に合っている 43%
④通学に便利 8%
③就職に有利 2%
②進学に有利 20%

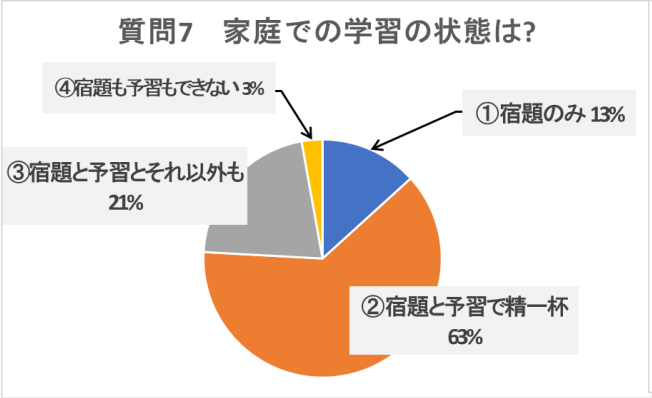

質問2　本校に入学して満足していますか
③少し不満 5%
④かなり不満 1%
①大いに満足 31%
②だいたい満足 63%

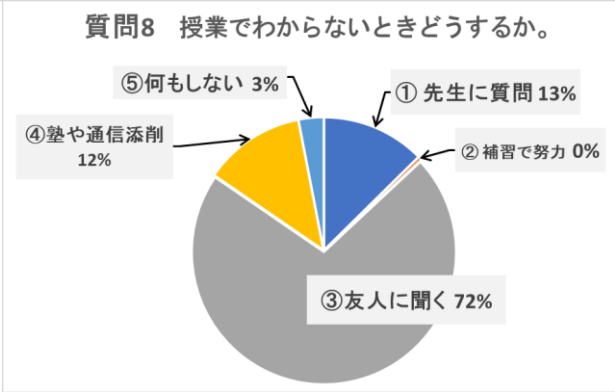

質問3　高校卒業後に希望する進路
⑧未定 11%
⑦民間就職 5%
⑥公務員 4%
①国公立大 38%
⑤専門学校 11%
④医療系専門学校 10%
③短大 6%
②私立大 15%

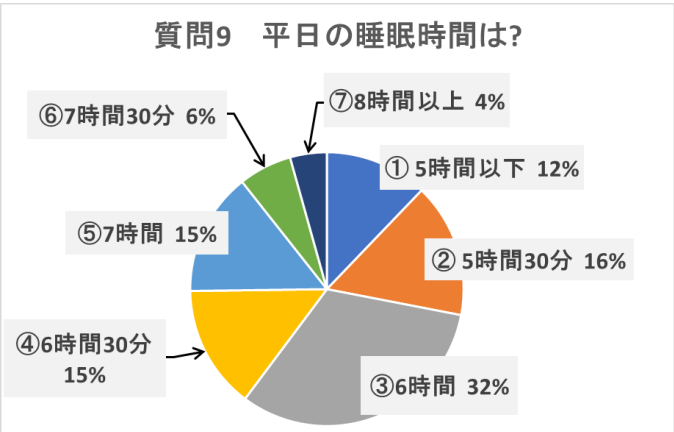

質問4　得意な教科はどれですか
⑩ 特にない 13%
① 国語 18%
⑨ 芸術 9%
⑧ 保健体育 12%
② 数学 17%
⑦ 家庭 0%
⑥ 情報 1%
③ 英語 12%
⑤ 理科 6%
④ 地歴公民 12%

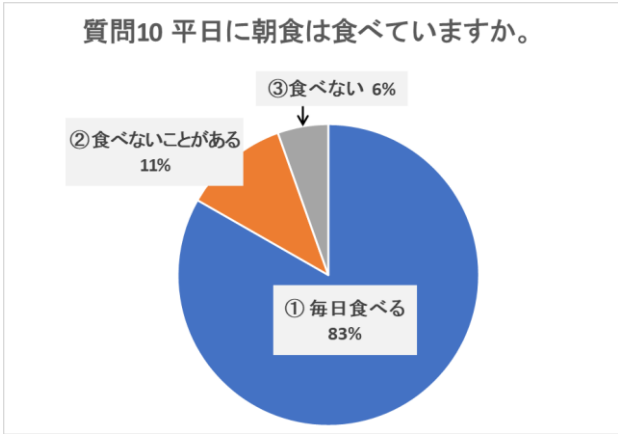

質問5　苦手な教科はどれですか。
⑨ 芸術 0%
⑩ 特にない 1%
⑧ 保健体育 0%
① 国語 8%
⑤ 理科 9%
④ 地歴公民 9%
② 数学 40%
③ 英語 31%

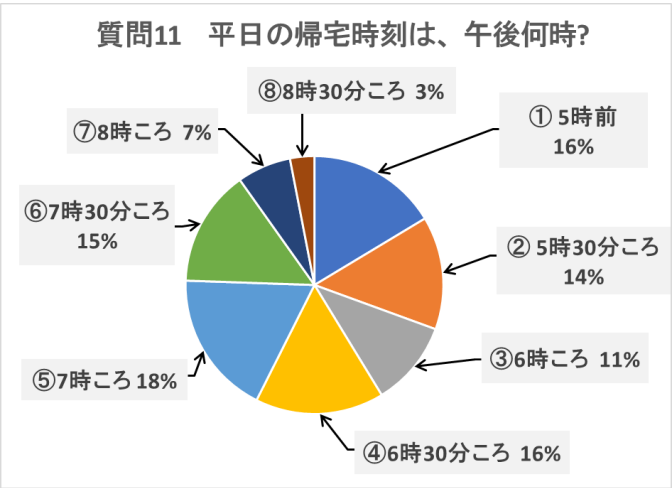

質問6　家庭での平日の学習時間
⑥4時間以上 3%
⑤3～4時間 3%
①30分未満 10%
④2～3時間 14%
②30分～1時間 32%
③1～2時間 38%

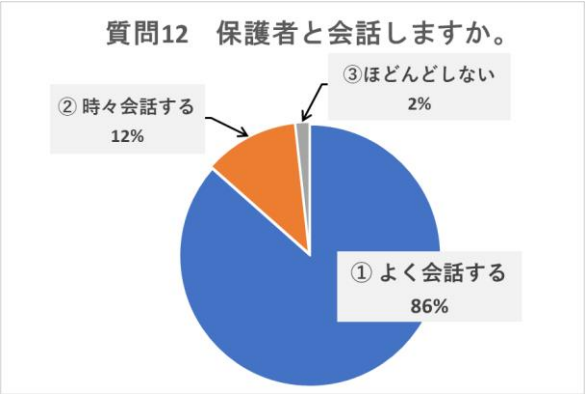

質問7　家庭での学習の状態は?
④宿題も予習もできない 3%
①宿題のみ 13%
③宿題と予習とそれ以外も 21%
②宿題と予習で精一杯 63%

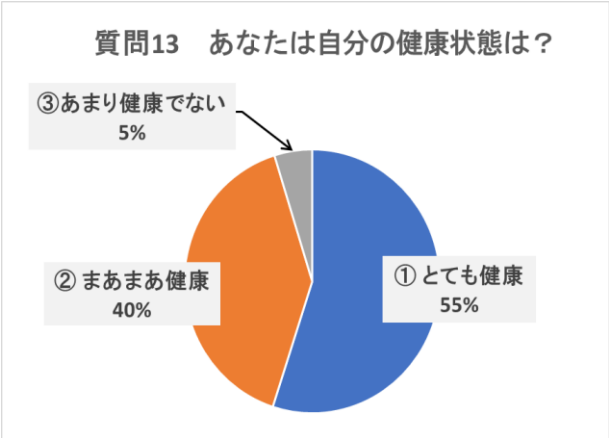

質問8　授業でわからないときどうするか。
⑤何もしない 3%
① 先生に質問 13%
④塾や通信添削 12%
② 補習で努力 0%
③友人に聞く 72%

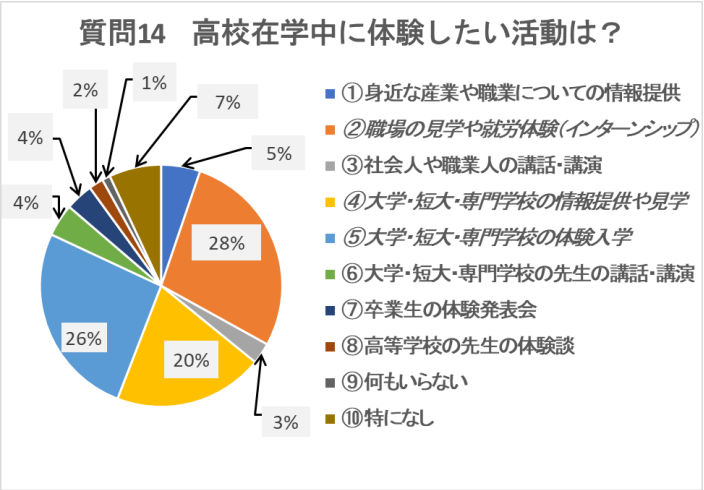

質問9　平日の睡眠時間は?
⑥7時間30分 6%
⑦8時間以上 4%
① 5時間以下 12%
⑤7時間 15%
② 5時間30分 16%
④6時間30分 15%
③6時間 32%

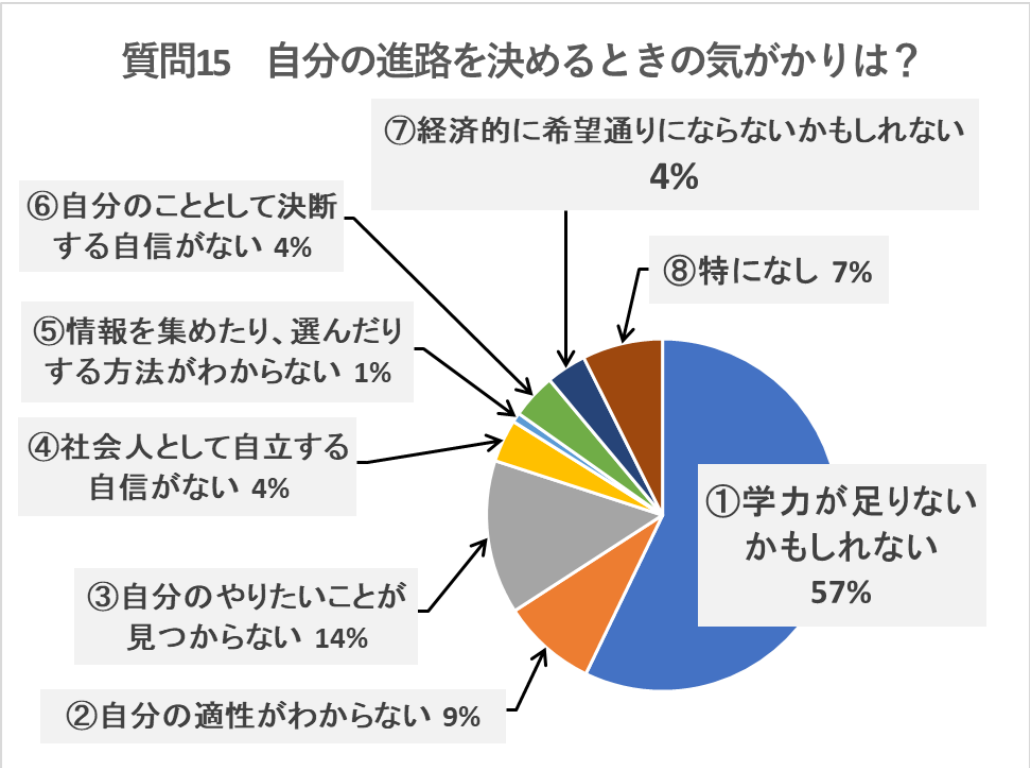

質問10 平日に朝食は食べていますか。
③食べない 6%
②食べないことがある 11%
① 毎日食べる 83%


質問11　平日の帰宅時刻は、午後何時?
⑧8時30分ころ 3%
⑦8時ころ 7%
① 5時前 16%
⑥7時30分ころ 15%
② 5時30分ころ 14%
③6時ころ 11%
⑤7時ころ 18%
④6時30分ころ 16%

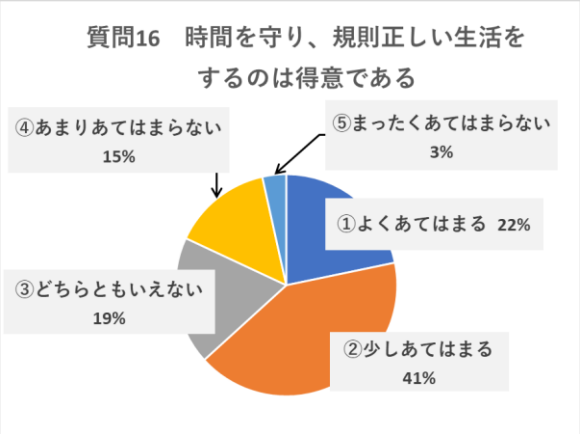

質問12　保護者と会話しますか。
③ほどんどしない 2%
② 時々会話する 12%
① よく会話する 86%

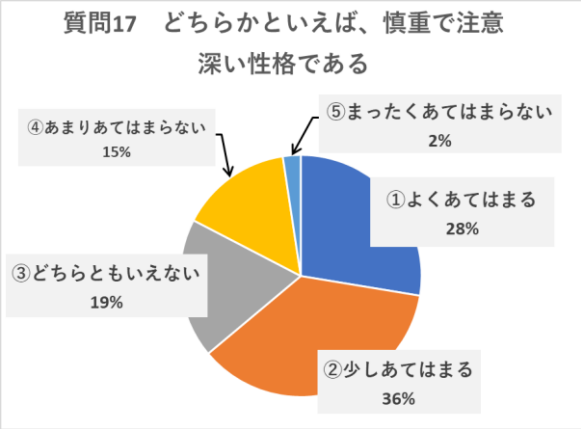

質問13　あなたは自分の健康状態は？
③あまり健康でない 5%
② まあまあ健康 40%
① とても健康 55%

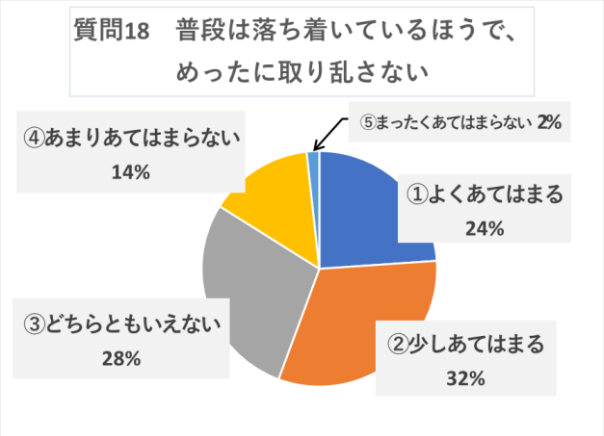

質問14　高校在学中に体験したい活動は？
2%
1%
7%
4%
5%
4%
28%
26%
20%
3%
①身近な産業や職業についての情報提供
②職場の見学や就労体験(インターンシップ)
③社会人や職業人の講話・講演
④大学・短大・専門学校の情報提供や見学
⑤大学・短大・専門学校の体験入学
⑥大学・短大・専門学校の先生の講話・講演
⑦卒業生の体験発表会
⑧高等学校の先生の体験談
⑨何もいらない
⑩特になし

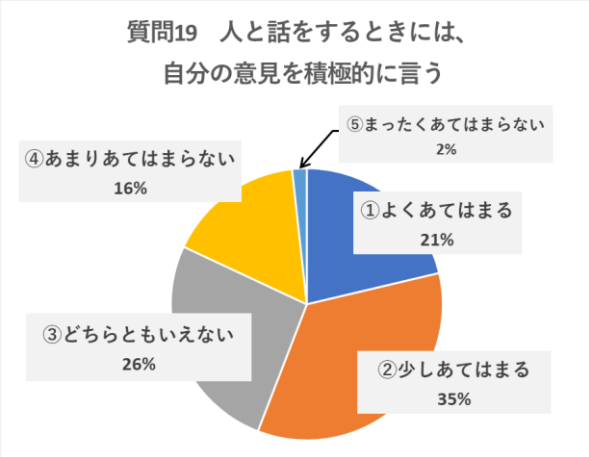

質問15　自分の進路を決めるときの気がかりは？
⑦経済的に希望通りにならないかもしれない 4%
⑥自分のこととして決断する自信がない 4%
⑧特になし 7%
⑤情報を集めたり、選んだりする方法がわからない 1%
④社会人として自立する自信がない 4%
①学力が足りないかもしれない 57%
③自分のやりたいことが見つからない 14%
②自分の適性がわからない 9%

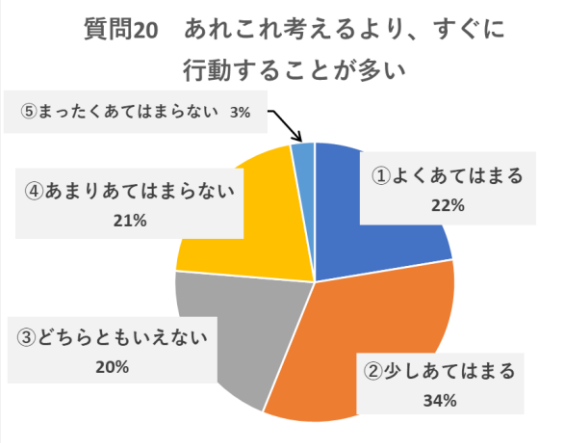
◎次の質問についてそれぞれ，選択肢①～⑤のうちの１つを選んでください。

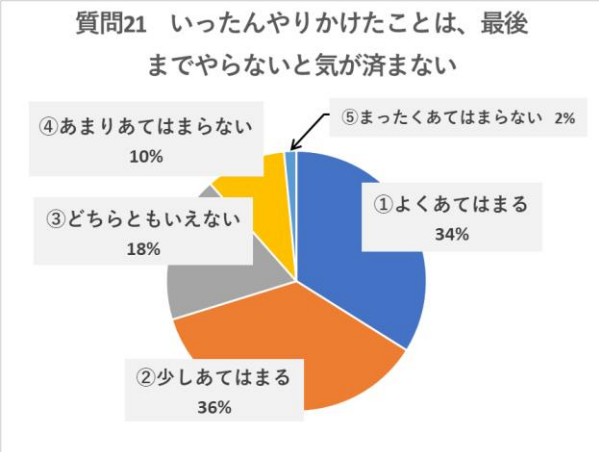




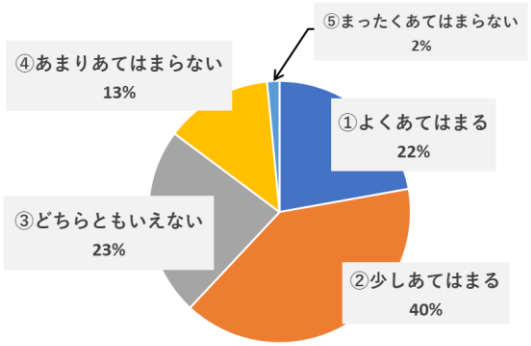




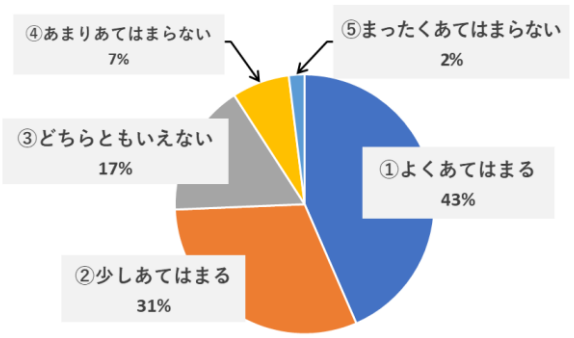




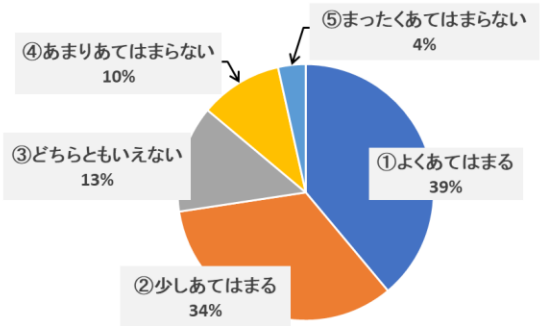
質問22　新しいことは何でも「見てやろう」「知ってやろう」と思う



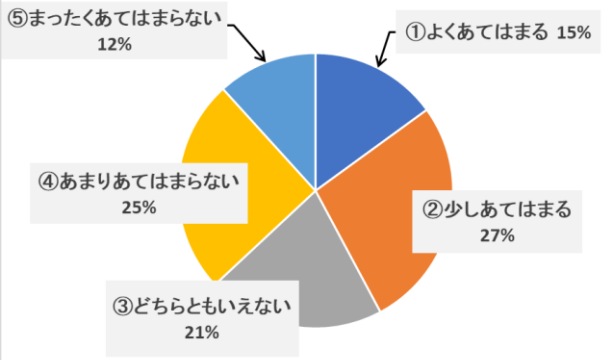
質問23　みんなといっしょに仕事をするのが好きである



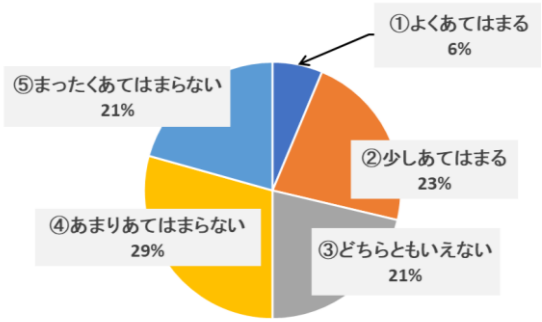
質問24　絵や音楽、演劇などの創造的な芸術活動に興味がある



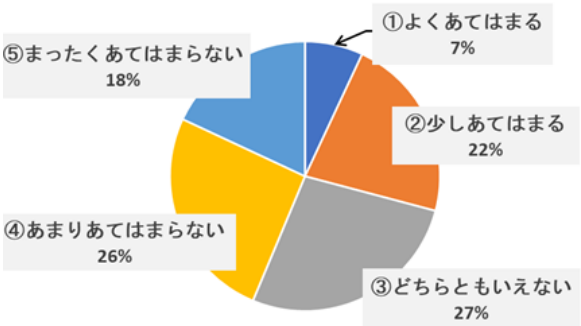
質問25　文章を書いたり、読んだりする創作･評論活動に興味がある

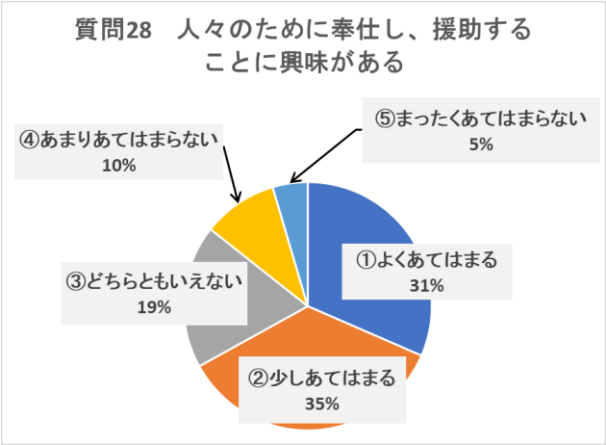


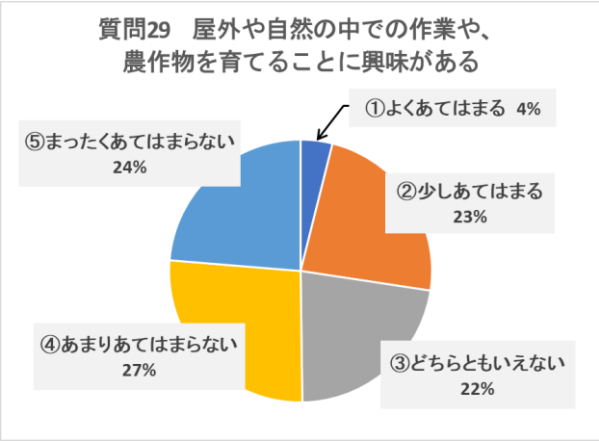
質問26　会計や正確さを必要とする事務的な仕事に興味がある

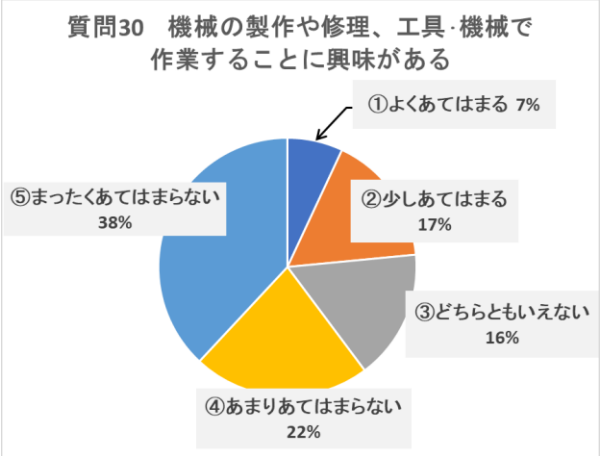


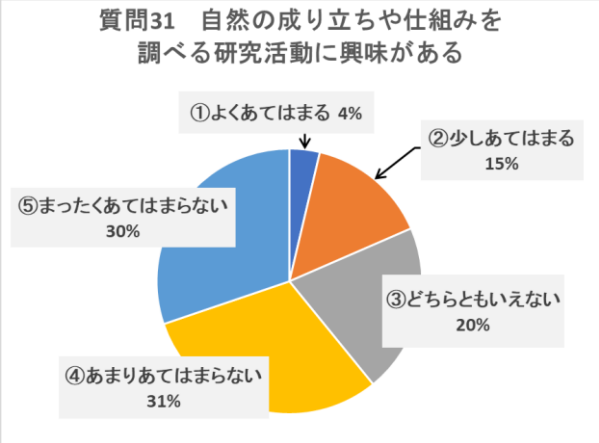
質問27　人との交渉･取引や、商品販売をすることに興味がある

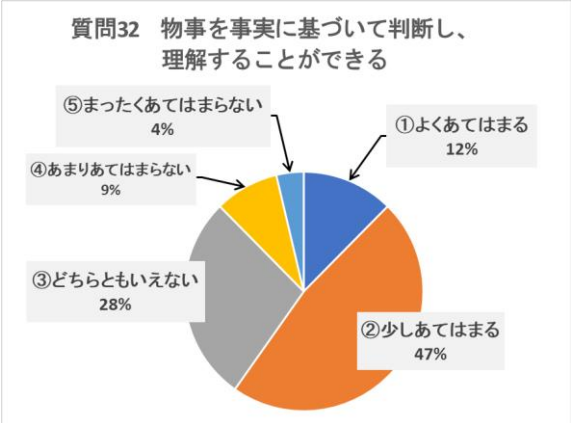


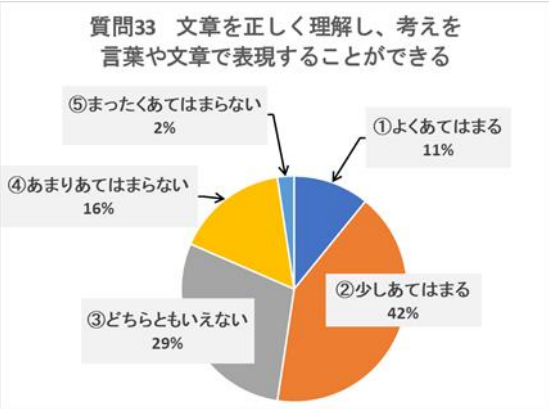

質問28　人々のために奉仕し、援助する
ことに興味がある
⑤まったくあてはまらない
5%
④あまりあてはまらない
10%
①よくあてはまる
31%
③どちらともいえない
19%
②少しあてはまる
35%

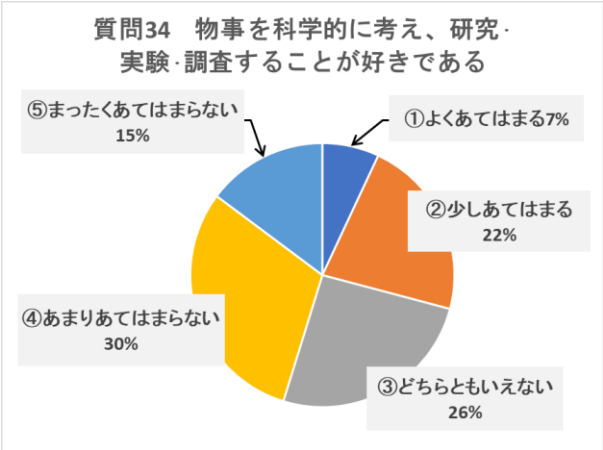

質問29　屋外や自然の中での作業や、
農作物を育てることに興味がある
①よくあてはまる 4%
⑤まったくあてはまらない
24%
②少しあてはまる
23%
④あまりあてはまらない
27%
③どちらともいえない
22%

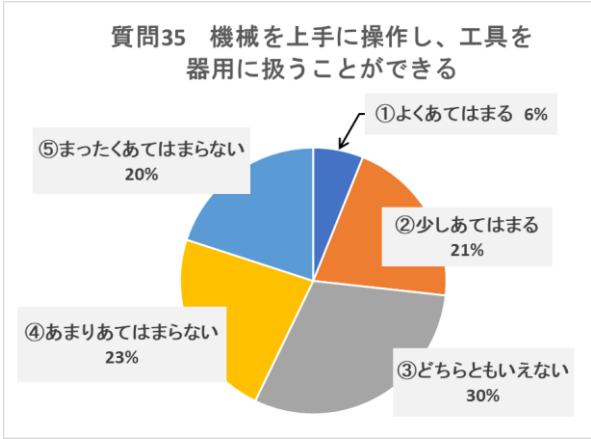

質問30　機械の製作や修理、工具･機械で
作業することに興味がある
①よくあてはまる 7%
⑤まったくあてはまらない
38%
②少しあてはまる
17%
③どちらともいえない
16%
④あまりあてはまらない
22%

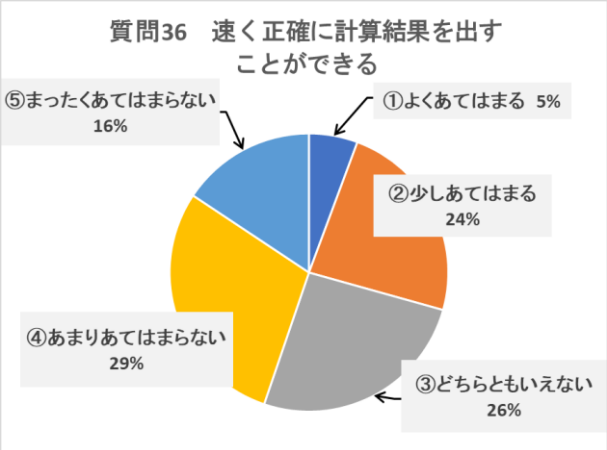

質問31　自然の成り立ちや仕組みを
調べる研究活動に興味がある
①よくあてはまる 4%
②少しあてはまる
15%
⑤まったくあてはまらない
30%
③どちらともいえない
20%
④あまりあてはまらない
31%

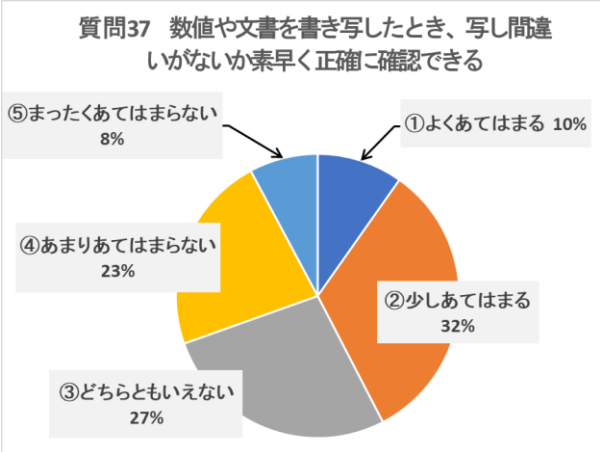

質問32　物事を事実に基づいて判断し、
理解することができる
⑤まったくあてはまらない
4%
①よくあてはまる
12%
④あまりあてはまらない
9%
③どちらともいえない
28%
②少しあてはまる
47%


質問33　文章を正しく理解し、考えを
言葉や文章で表現することができる
⑤まったくあてはまらない
2%
①よくあてはまる
11%
④あまりあてはまらない
16%
②少しあてはまる
42%
③どちらともいえない
29%


質問34　物事を科学的に考え、研究･
実験･調査することが好きである
⑤まったくあてはまらない
15%
①よくあてはまる7%
②少しあてはまる
22%
④あまりあてはまらない
30%
③どちらともいえない
26%


質問35　機械を上手に操作し、工具を
器用に扱うことができる
①よくあてはまる 6%
⑤まったくあてはまらない
20%
②少しあてはまる
21%
④あまりあてはまらない
23%
③どちらともいえない
30%


質問36　速く正確に計算結果を出す
ことができる
⑤まったくあてはまらない
16%
①よくあてはまる 5%
②少しあてはまる
24%
④あまりあてはまらない
29%
③どちらともいえない
26%


質問37　数値や文書を書き写したとき、写し間違
いがないか素早く正確に確認できる
⑤まったくあてはまらない
8%
①よくあてはまる 10%
④あまりあてはまらない
23%
②少しあてはまる
32%
③どちらともいえない
27%

編　集　後　記

先生方のご協力のおかげで、令和４年度の研究紀要「ひろば」第４８号を発行できますことに、お礼申し上げます。今年度の研究授業には、IT を活用しての取り組みがあります。進路指導に関する報告では、本校での最近の実践とその成果についてまとめられています。生徒指導の話題は、円滑な人間関係、及び薬物乱用防止に関するものです。さらに、芸術科（美術）からは、東京都で開催された研修への参加報告があります。先生方にはぜひ目を通していただき、今後の参考にしていただきたいと思います。

秋田県立横手城南高等学校　研修部

令和４年度　ひろば　Ｎｏ．４８

発行日　　令和　５年　３月１５日

発行者　　秋田県立横手城南高等学校
〒013-0016　横手市根岸町２－１４